PENTAX

645NII

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびはペンタックス中判カメラ **645NII** をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
カメラを十分にご理解してお使いいただくため、この説明書を最後までお読みいただきますようお願いいたします。
なおこのカメラには、機能を撮影スタイルに合わせて設定できる10項目のペンタックスファンクション機能がありますが、本文中では基本的にその初期設定（工場出荷状態）の内容を基に説明を行っています。

「林檎の秘密」（有料）
すぐに役立つ写真の基礎知識

露出の仕組みや光の測り方、ピントの合わせ方など写真の基礎を豊富なイラストと作例でわかりやすく解説しています。お買い求めは、ペンタックスサービス窓口・ペンタックスファミリーまたは、最寄りのカメラ店で。

記号について

操作の方法	←
注目してください	◌
点滅します	☀

商標について

本文中のイラストおよび液晶モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

カメラを安全にお使いいただくために

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告

このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠ 注意

このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

⦸ は、禁止事項を表わすマークです。

⚠ は、注意を促すためのマークです。

⚠ 警告

⦸ ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。

⦸ 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特に、レンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。

⚠ 注意

⦸ 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。

⦸ 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

取り扱い上の注意

- 海外にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールド・ワイド・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- 防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかるところでは使用できません。
- 強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- レンズキャップを外した状態でカメラを三脚などに取り付けたまま放置しないでください。太陽光によりカメラ内部を傷めることがあります。
- 長期間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用や逸失利益等）については、保証いたしかねます。
- 高性能を保つため、1～2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- カメラの使用温度範囲は－10℃～50℃です。
- カメラの中やフィルムバックにゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などが付かないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- レンズ、ファインダー窓のホコリは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロワーは、レンズを破損させる恐れがありますので、使用しないでください。

目　次

I カメラの準備と基本操作編

II 撮影編

目　次

III 付録

各部の名称

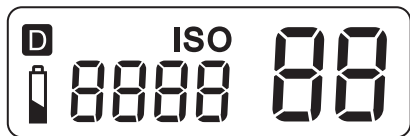
前面上部

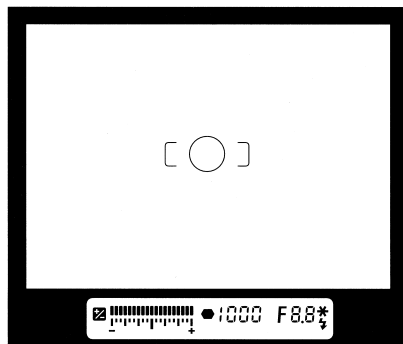
露出補正ダイヤル［☞21、60、73、86ページ］
AFモード切り替えレバー
［☞34、35ページ］
露出補正ダイヤルロックボタン
シャッターダイヤル
オートブラケットレバー［☞62ページ］
視度調整リング
［☞25ページ］
ホットシュー［☞66ページ］
AEエリア切り替えレバー
［☞36、37ページ］
シャッターダイヤルロックボタン
測光モード切り替えレバー
［☞57、58、59ページ］
レンズ情報接点
表示パネル［☞7ページ］
電源スイッチ
［☞13ページ］
レンズ取り外しボタン［☞15ページ］
AEロックボタン
［☞65、73ページ］
プレビューレバー［☞40ページ］
アップ／ダウンボタン
ドライブダイヤル
［☞41、42、43、44ページ］
レリーズネジ穴［☞54ページ］
シャッターボタン［☞28ページ］

背面下部

電池ホルダー着脱つまみ［☞ 11ページ］
外部電源ソケット［☞ 12ページ］
電池ホルダー［☞ 11ページ］
三脚ネジ穴
ワンタッチレリーズソケット
［☞ 54ページ］
途中巻き取りボタン［☞ 23ページ］
タテ位置三脚ネジ穴
吊り金具［☞ 10ページ］
多重露出レバー
［☞ 44、45ページ］
ストラップ回転止め
フィルムバック着脱つまみ［☞ 17ページ］
Xシンクロソケット［☞ 69ページ］
フィルムバック
［☞ 17ページ］
吊り金具［☞ 10ページ］

表示パネル／ファインダー内の表示ガイド

表示パネル

- D ：撮影データ写し込み［☞83ページ］
- （電池マーク）：電池消耗警告［☞14ページ］
- ISO ：フィルム感度［☞21ページ］
- 8888 ：フィルム感度値［☞21ページ］
- 88 ：フィルムカウンター［☞20ページ］

ファインダー内表示

- ○ ：スポット範囲円［☞37、59ページ］
- [ ] ：AFフレーム（3点AFフレーム）［☞36ページ］
- （±マーク）：露出補正［☞60ページ］
- （バーグラフ）：バーグラフ［☞52、60、62、63、64ページ］
- ⬣ ：合焦（ピント情報）［☞28、30ページ］
- 1000 ：シャッター速度［☞47、48、50、52、56ページ］
- F8.8 ：絞り値［☞47、48、50、52、53、56ページ］
- ✱ ：AEロック［☞65ページ］
- ϟ ：ストロボ情報［☞66ページ］

レンズ・アクセサリーとの組み合わせ

レンズ・アクセサリーとの組み合わせ時の各機能

機能	レンズ単体での使用		レンズ＋リアコンバーター Aレンズ＋オート接写リングA	レンズ＋ヘリコイド接写リング　注1	レンズ＋67レンズ用アダプター 645
	A645レンズ	FA645レンズ	A、FA645レンズ	A、FA645レンズ	67レンズ
プログラム自動露出	○	○	○	×	×
絞り優先自動露出	○	○	○	○　注2	○
シャッター優先自動露出	○	○	○	×	×
マニュアル露出	○	○	○	○　注2	○
プログラムTTLオートストロボ撮影	○	○	○	×	×
TTLオートストロボ撮影	○	○	○	○	○
AF540FGZ、AF500FTZ、AF360FGZ、AF330FTZ使用時の自動照射角変化	×	○	×	×	×
絞りA位置でのファインダー内の絞り値表示	○	○	△　注3	×	×
絞りA位置以外でのファインダー内の絞り値目安表示	○	○	△　注3	×	×
オートフォーカス	×	○	×	×	×
マニュアルフォーカス時のファインダー内合焦表示　注4	○　注5	○　注6	○	○　注5	○　注5
分割測光、中央重点測光、スポット測光切り替え	○	○	○	△　注7	△　注7
フィルムへの焦点距離データの写し込み	×	○　注8	×	×	×

注1：ヘリコイド接写リング同様、情報接点のないアクセサリーはこの項目にあてはまります。

注2：絞込み測光になります。

注3：オート接写リングA使用時は、全てのレンズでレンズの絞り値そのままが表示されます。
リアコンバーター A645 2X使用時は、全てのレンズでレンズの絞り値がそのまま表示されます。
リアコンバーター A645 1.4Xは、専用設計のため、A*645 300mm F4・FA*645 300mm F4以外のレンズとの組み合わせでは表示内容に違いを生じます。
［レンズの絞り値をそのまま表示］
・FA645 300mm F5.6　・FA645 400mm F5.6　・A*645 600mm F5.6
［組み合わせるとレンズとの合成絞り値を表示］
・A645 200mm F4　・FA645 200mm F4　・A*645 300mm F4　・FA*645 300mm F4
・A645マクロ 120mm F4　・FA645マクロ 120mm F4
［組み合わせるレンズの2絞り絞った値を表示］
（例）レンズの絞り値がF4の場合、F8を表示
・FA645 150mm F2.8

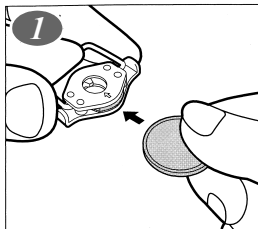
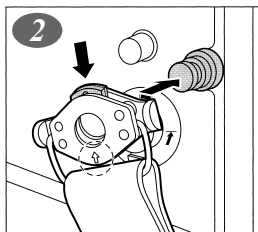
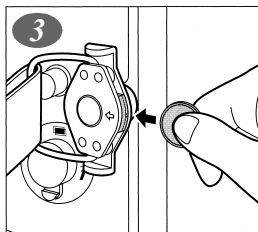
注4：レンズ単体、もしくはアクセサリーと組み合わせた場合の合成換算絞り値がF5.6以上明るい場合のみ。

注5：A645マクロ 120mm F4は、等倍～1/2倍においての作動は保証できません。
AFエリアの設定が3点AFになっている場合でも、合焦表示はスポットAFでおこなわれます。

注6：AFエリアの設定が3点AFになっている場合は、合焦表示も3点AFでおこなわれます。

注7：分割測光を選択しても中央重点測光になります。

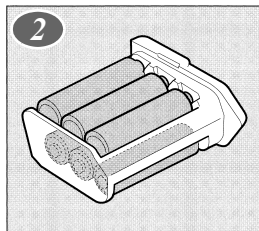
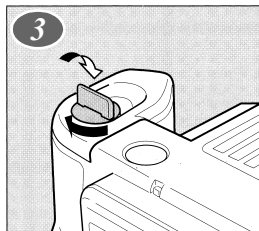
注8：FA645 45～85mm F4.5、FA645 80～160mm F4.5は近似値が写し込まれます。

ストラップの取り付け

コインなどでファスナーのロック板を矢印方向に押すとロックが解除されます。

ファスナーの点線で示す矢印部分を手前に見えるようにして、穴を吊り金具に入れ、ロック板を元に戻すとロックされます。

取り外すときは、手順1と同じようにロック板を矢印方向に押してください。

- ストラップの長さは、留め具で調整してください。
- ストラップの取り付け後、ストラップを引っ張り確実にロックされていることを確認してください。
- ストラップにはポケットがついていますので、小物入れとしてご利用ください。

電池のセット

使用電池は、単3形リチウム電池および単3アルカリ電池です。

電池ホルダー着脱つまみを起こし、矢印方向に回して電池ホルダーを取り出します。

単3形電池6本を電池ホルダーの表示に合わせて入れます。

カメラに電池ホルダーを入れ、電池ホルダー着脱つまみを図の方向に回してロックをし、元の位置に戻します。

- このカメラは電池がないと動きませんので、操作をする前には、必ず決められた単3電池を6個入れてください。
- Ni-MH（ニッケル水素）充電池も使用できますが、使用回数・充放電方法など条件による特性のばらつきが大きく、低温での特性もあまりよくないため、できるだけ単3形リチウム電池か単3形アルカリ電池をご使用ください。

–つづく–

–つづき–

- 電池を交換するときは、全部を一度に、同一メーカー・同一種類で行なってください。また、新しい電池と古い電池を混ぜないでください。
- カメラご購入時に同梱されている電池は作動確認用のサンプル電池です。従って右記のフィルム本数を撮影できないことがあります。
- 長い間使わないときは電池を取り出しておいてください。液漏れの原因となります。
- 電池を入れ替えてもフィルム感度やフィルム枚数はそのまま記憶されています。
- 撮影可能フィルム本数およびバルブ時間は、使用条件によって変わりますのでご注意ください。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

［20℃］新品電池で当社試験条件による

	アルカリ電池	単3リチウム電池
120フィルム	約130本	約320本
220フィルム	約100本	約250本
バルブ露出時間	約8時間	約12時間

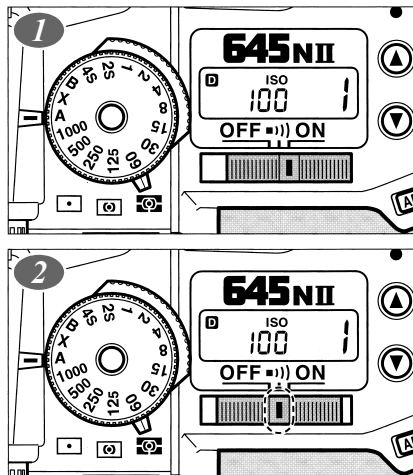
撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

［－10℃］新品電池で当社試験条件による

	アルカリ電池	単3リチウム電池
120フィルム	約7本	約120本
220フィルム	約5本	約90本
バルブ露出時間	約6時間	約10時間

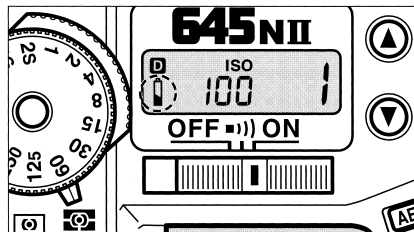
- 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。
- 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。別売りのリモートバッテリーパック645（外部電源）を外部電源ソケットに差し込んでご使用いただくこともできます。

電源のON／OFF

● 使わないときは、必ず電源を切っておいてください。シャッターボタンが押されると電池が消耗します。
● 電源がOFF位置でも表示パネルのフィルム枚数表示は常に表示されます。

1. 電源スイッチをON位置にすると電源が入り、電源スイッチをOFF位置にすると電源が切れます。

2. 電源スイッチを■))位置にすると以下の条件で電子音が鳴ります。
   - ピントが合ったとき
   - 撮影可能枚数が残り1枚になったとき
   - ミラーアップを行ったとき

- 表示パネルの電池消耗警告🔋が点滅になると、ファインダー内の表示は消え、カメラが作動しなくなります。

電池消耗時の警告表示

電池が消耗すると、表示パネルに電池消耗警告🔋が点灯します。お早めに電池を交換してください。(☞11ページ)
電池マーク🔋が出たままでも、シャッターが切れれば露出に問題はありません。

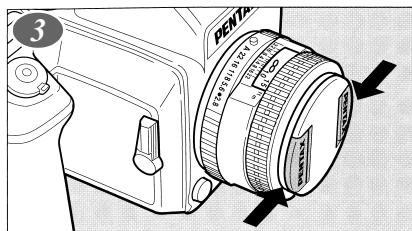
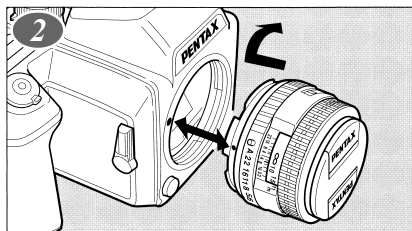
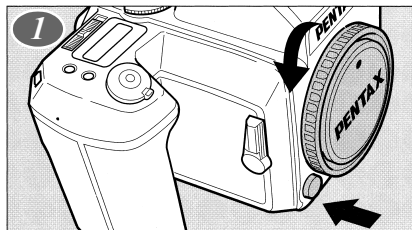
レンズの着脱

● レンズ取り付け時は、レンズ取り外しボタンを押さないでください。レンズの取り付けが不完全になります。

● レンズ取り付け後は、レンズを取り付け方向とは逆に軽く回して、確実に取り付いていることを確認してください。

● オートフォーカス対応でない従来レンズ［Aレンズ］もこのカメラに取り付けてほとんどの機能がそのまま使用できます。

● 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。

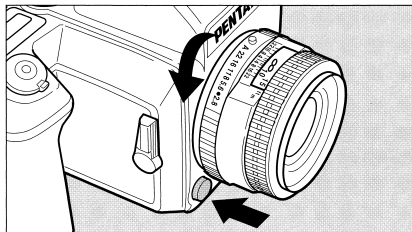
–つづく–

レンズの取り付け

レンズ取り外しボタンを押しながら、ボディーマウントキャップを外します。

レンズのマウントキャップを外しカメラとレンズの赤点のマウント指標を合わせて、レンズをカメラにはめ込み、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。

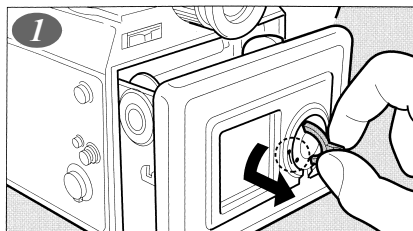
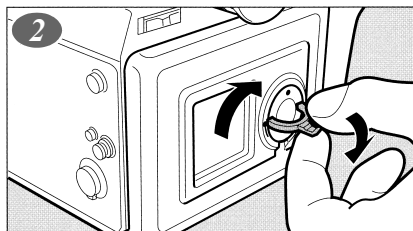
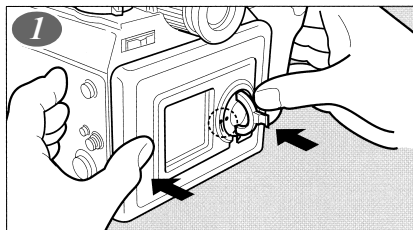
レンズキャップは、矢印部分を内側に押すと外れます。

–つづき–

- カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。
- 外したレンズは、マウント周辺を傷付けないため、カメラに取り付く面を下にして置かないでください。

レンズの取り外し

レンズを外すときは、レンズ取り外しボタンを押したまま、レンズを左へ回してください。

120・220フィルムバック645の着脱方法

● フィルムバックの上下を逆にして無理に入れると故障の原因になります。

付け方

図の赤点部分が合っていることを確認後、フィルムバックの左右の端を「カチッ」と音がするまで押し込んでカメラに差し込んでください。

フィルムバック着脱つまみを右に90°回してロックします。フィルムバック着脱つまみは下に倒しておきます。

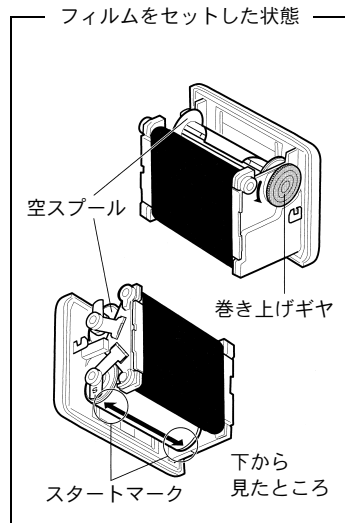
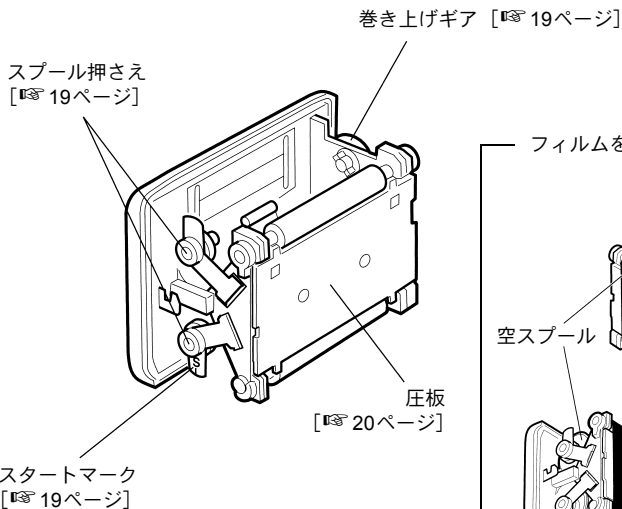
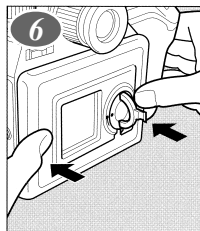
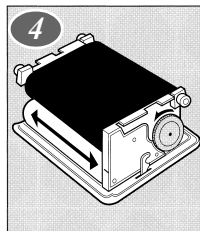
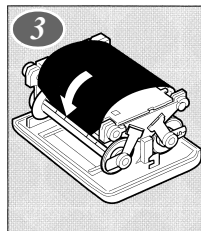
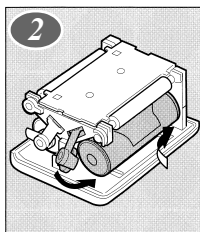
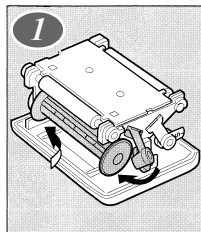
外し方

フィルムバック着脱つまみを起こして、赤点部分まで回し更に左に回すとフィルムバックが外れます。

フィルムのセット

フィルムを入れた後、必ずフィルム感度の設定を行ってください。☞21ページ

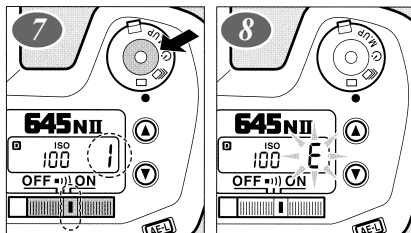
フィルムバックの種類について

120 フィルムバックは 120 フィルム専用、220フィルムバックは220フィルム専用です。必ずフィルムの種類にあったフィルムバックをご使用ください。異なった種類のフィルムを装填すると、ピントがずれたり、巻き上げの動作が正常に行われなくなります。

空スプールを図の位置に入れ、スプール押さえで止めます。
新しいフィルムのシールをはがし、黒い何も書いていない面が外側になるようにフィルムバックに入れ、スプール押さえで止めます。

フィルム先端を空スプールの溝に差し込みます。
フィルムを軽く押さえながら巻き上げギヤを矢印方向に回します

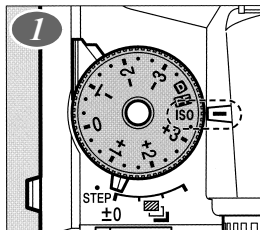
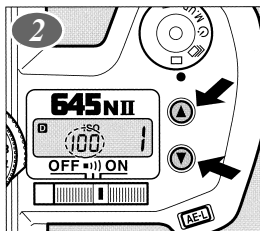
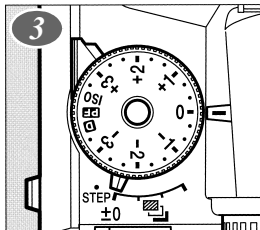
巻き上げギヤを回していくと、スタートマーク（矢印）が出てくるので、フィルムバックのスタートマークⓈ（赤線）に合わせます。
フィルムバックをカメラにセットします。

- 220 フィルムの場合、スタートマークの矢印の前に点線のマークが出てきます。この点線をフィルムバックのスタートマークに合わせると、最初の約3枚分が未露光となります。
- スタートマークより後側に合わせると、最後のコマが正しく露光されなくなります。

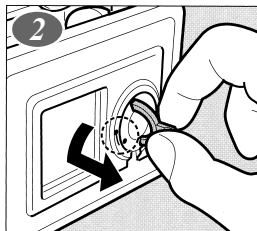
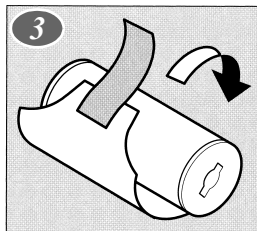
● 手順7で、シャッターボタンを押す前には、表示パネルに0が表示されます。
● 多重露出がセットされている状態では、表示パネルのフィルム枚数の0が点滅します。多重露出を解除し、シャッターボタンを押し直してください。
● フィルムには直射日光が当たらないようにご注意ください。
● カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。

電源スイッチをONにして、シャッターボタンを押すと自動的にフィルムが1枚目まで送られ、表示パネルに1が表示されます。
表示パネルのE表示が点滅しているときは、フィルムが正しく入っていません。もう一度正しく入れ直してください。

● 表示パネルのフィルム枚数表示は、撮影するごとに1つずつ進みます。（順算表示）
この表示は、ペンタックスファンクションの設定により逆算表示（撮影可能残数表示）に変更も可能です。（☞80ページ）
● フィルム傷の原因になりますので、圧板は常にきれいにしておいてください。ごみや汚れが付いたときは、きれいな布で拭いてください。
● 空スプールの溝から飛び出たフィルム先端部分はスプールに沿って折り曲げてください。フィルムのゆるみや太巻きによる感光の原因になります。
● フィルムの入っていないフィルムバックをカメラに取り付けた場合、まれに表示パネルのE表示が点滅します。この場合、フィルムバックの着脱を何度かしてE表示が消えればそのままお使いいただけます。
● 撮影途中でのフィルムバックの交換はできません。
● 撮影可能枚数は、120フィルムバックで15枚、220フィルムバックで32枚ですが、ペンタックスファンクションの設定により変更が可能です。（☞82ページ）
● 電源スイッチが•))) 位置になっていると、撮影可能枚数が残り1枚になった時点で電子音が約3秒鳴り、撮影可能枚数が少なくなったことを知らせます。

フィルム感度の設定方法

● 露出補正ダイヤルを 0 位置から外すときは、露出補正ダイヤルロックボタンを押しながら回します。
● 露出補正ダイヤルが ISO 位置では表示パネルの ISO 表示が点滅し、ファインダー内の表示は消えます。
● 露出補正ダイヤルが ISO 位置でははシャッターは切れません。
● フィルム感度はISO6～6400の間で1/3段階毎に設定できます。
● フィルムバックのメモホルダーに使用フィルムの箱のふたを切り取って入れ、フィルム種類の確認用としてご利用ください。
● 表示パネルのフィルム感度値とISO表示は電源がONであれば常に表示されます。

露出補正ダイヤルを回し、ISO位置にします。

アップ／ダウンボタンで感度を設定します。
アップボタン▲では数字が大きい方に、ダウンボタン▼では数字が小さい方に変化します。

設定終了後、露出補正ダイヤルを 0 位置に戻します。

フィルムの取り出し

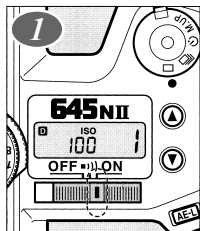
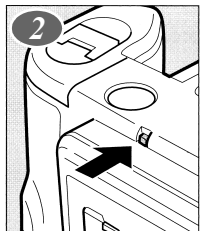
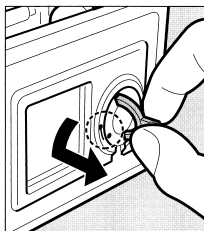
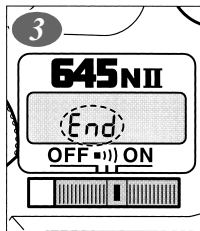
フィルムを最後まで撮り終えると、自動的に巻き取って停止し、表示パネルに End が表示されます。

フィルムバックをカメラから外します。

フィルムバックを取り出し、先端を内側に折り曲げてからフィルムに付いているシールでフィルムがたるまないように止めてください。

- フィルムには直射日光が当たらないようにご注意ください。
- フィルムをシールで止めるときに、あまり強く巻きすぎると、圧力カブリ（圧力でフィルムが感光したようになる現象）を起こすことがあるのでご注意ください。
- フィルムバックを外すと表示パネルのフィルム枚数表示は消えます。

フィルムの途中巻き取り

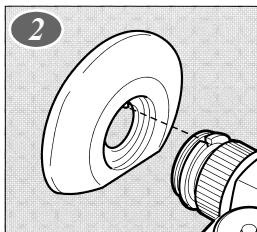
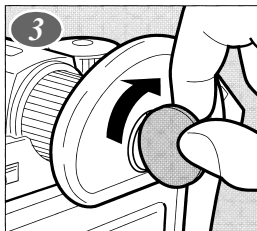
フィルムを最後まで撮り終わらないうちに、途中で取り出したいときに使います。

● 途中巻き取りボタンは止まる位置まで完全に押し込んでください。フィルムが正しく巻き取られていない場合があります。

● フィルム巻取り中は、表示パネルのフィルム枚数表示が順に増えていきます。

電源スイッチを ON 位置にします。

途中巻き取りボタンをペンの先などで押すと、フィルムを最後まで巻き取ります。

表示パネルの End 表示を確認してから、フィルムバックをカメラから外しフィルムを取り出します。End が表示されないときは、再度途中巻き取りボタンを押してみてください。

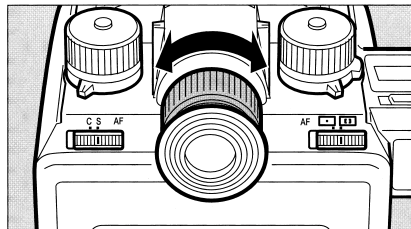
大型アイカップの取り付け

このカメラには、標準のアイカップの他に大型のアイカップが付属しております。お好みで使い分けてください。

図の部分を左に回して標準アイカップを外します。

大型アイカップの固定ピンとアイピースの溝を合わせて取り付けます。

コインなどを溝に入れて右に回して固定します。

- 大型アイカップを外すときは逆の操作で行います。
- レフコンバーターなどのアクセサリーを取り付けるときは、アイカップを外してから行います。
- 1円、50円などの小さな径の硬貨を使用すると、ファインダーの接眼レンズに接触し、傷を付ける恐れがあります。

ファインダーの視度調整

● 視度の調整範囲は、−3.5～＋$1m^{-1}$［毎メートル］です。
● 視度調整はご使用前に必ず行ってください。

視度調整リングを回し、ファインダー内のAFフレーム[ ]の線が最もはっきり見える位置に調整します。
視度は時計方向に回すと−側、反時計方向に回すと＋側に調整されます。

撮影編の構成

ピント関連

ピント合わせ方法の選択

AFモードの選択

AFエリアの選択

巻き上げ関連

ドライブモードの選択

露出関連

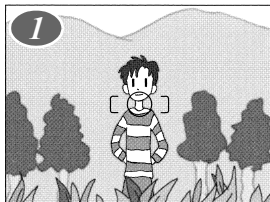
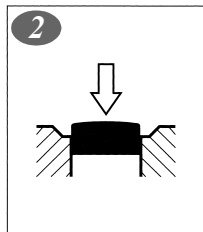
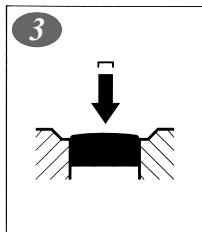
露出モードの選択

測光モードの選択

ストロボ関連

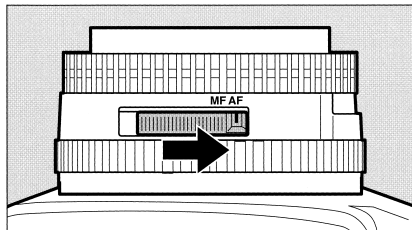
基本的な撮影手順

このページでのカメラの各設定は以下のとおりです。

●ピント……オートフォーカス（☞30ページ）
●AFモード……シングルS（☞34ページ）
●AFエリア……3点AF[　]（☞36ページ）
●露出……プログラム自動露出（☞47ページ）
●ドライブダイヤルの位置……1コマ撮影（☞41ページ）

ファインダー内のAFフレーム[　]の内側に被写体を合わせます。

シャッターボタンを半押しします。
ファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。同時に自動的にピント合わせが行われ、ファインダー内に●が点灯します。

シャッターボタンを押しきります。（全押し）
シャッターボタンを半押しからさらに押し込むと、シャッターがきれ、自動的にフィルムが巻き上げられます。

- フィルムを入れて撮影する前に、シャッター半押しと全押しの感覚をつかんでください。
- ファインダー内表示は、シャッターボタンを半押ししてから約10秒間は指を離しても表示されたままになります。この表示時間はペンタックスファンクションの設定により変更することも可能です。（☞76ページ）
- ピント合わせ時にファインダー内の●が点滅する場合は、被写体が近すぎるか、オートフォーカスの苦手な被写体（☞30ページ）にピントを合わせようとしています。
- 一般的に、「レンズの焦点距離分の 1」秒のシャッター速度が手持ちの撮影の限界とされています。例えば、75mmレンズでは1/75秒、150mmレンズでは1/150秒です。これ以下のシャッター速度になる場合は、三脚を使用するなどぶれに対する工夫が必要です。

オートフォーカス（AF）

オートフォーカスでは、シャッターボタンを半押しするだけで自動的にピント合わせが行なわれます。

● レンズ側の切り替え方法はレンズによって異なります。詳しくは、レンズの説明書をご覧ください。
● カメラ側にはオートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えはありません。
● A レンズ［LS レンズを含む］ではオートフォーカスは働きません。
● AFモードにはシングルⓈ（☞34ページ）とコンティニアスⒸ（☞35ページ）があります。

レンズ側をオートフォーカスに切り替えます。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構はきわめて高精度のものですが、万能ではありません。被写体が下記のような場合には、ピントが合わないことがあります。ファインダー内の合焦マーク⬣を利用してのマニュアルフォーカスも同様です。
そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にフォーカスロック（☞38ページ）をしたり、従来のカメラと同様にファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカス（☞33ページ）をしてください。

● AF フレーム［ ］の内側に白い壁などの極端にコントラスト［明暗差］の低い物だけの場合。
● AFフレーム［ ］に光を反射しにくい物がある場合。
● 非常に速い速度で移動している物。
● 遠近のものがAFフレーム［ ］の中で同時に存在する場合。
● 反射の強い光、強い逆光［周辺が特に明るい物］。
● 格子など繰り返しパターンの場合。

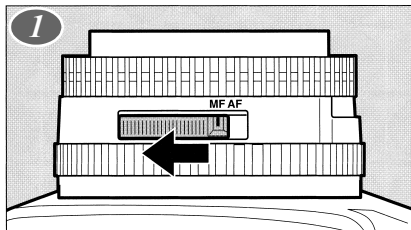
アクセサリーの注意

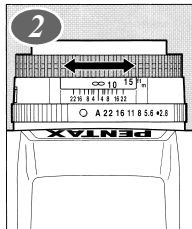
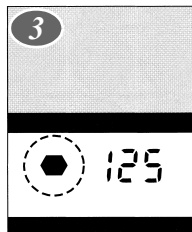
以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦マーク●を利用したマニュアルフォーカスができません。ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカス（☞33ページ）をしてください。

● 特殊なフィルターなどを使った場合。
●「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

偏光フィルターについて

一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスおよび露出の精度が低下します。円偏光フィルターの使用をお勧めします。

マニュアルフォーカス（MF）

ファインダー内の合焦マーク⬢を利用する場合

レンズ側をマニュアルフォーカスに切り替えます。

シャッターボタンを半押しし、ファインダー内表示が点灯した状態で、レンズの距離リングを回します。

AFエリア内の被写体にピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬢が点灯します。
そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

● レンズ側の切り替え方法はレンズによって異なります。詳しくは、レンズの説明書をご覧ください。

合焦マーク[●]が使えない場合

被写体が「オートフォーカスの苦手な被写体」(☞30ページ)に該当し、合焦マーク[●]が点灯しないときは、ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカスをしてください。

マット面を利用する場合

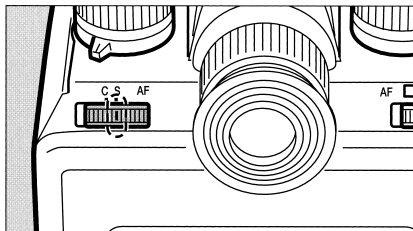
レンズ側をマニュアルフォーカスに切り替えます。

レンズの距離リングを回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

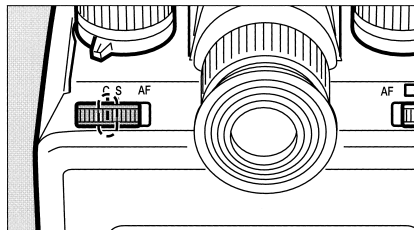
- カメラ側にはオートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えはありません。
- レンズがAレンズ[LSレンズを含む]の場合やオート接写リングA645・リアコンバータA645などのアクセサリーを使用した場合も同じ使い方ができますが、カメラの設定に関係なくファインダー中央のスポット範囲円の内側でのみピント合わせが行われます。
- ファインダー内の合焦マーク[●]が使えるのは、レンズの明るさがF5.6および、それより明るい場合です。
- ピントが合った時に、ファインダー内の合焦マーク[●]の点灯と同時に電子音を鳴らすこともできます。(☞13ページ)

AFモード：シングルⓈ

一般的なオートフォーカスモードです。シャッターボタンを押してもピントが合っていないとシャッターがきれません。

● A レンズ［LS レンズを含む］ではマニュアルフォーカスになります。この場合、ピントが合っていなくてもシャッターはきれます。

AF モード切り替えレバーをⓈ位置に合わせます。

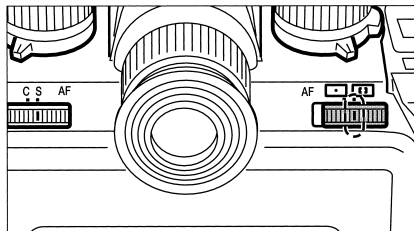
AFモード：コンティニアスⒸ

シャッターボタンを半押ししている間、被写体の位置が変わっても、それに合わせて連続的にピントを合わせ続けます。ピントが合っていなくてもシャッターボタンを押し込めばいつでもシャッターはきれます。

AFモード切り替えレバーをⒸ位置に合わせます。

動体予測

AFモードがコンティニアスでは、シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、常に被写体にピントを合わせ続けます。ただし、連続撮影の場合、2コマ目以後は、ピントが合わないとシャッターがきれません。

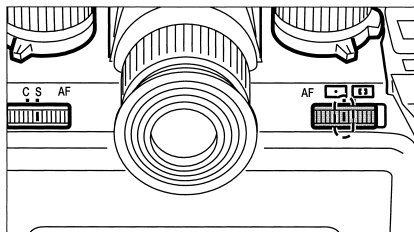
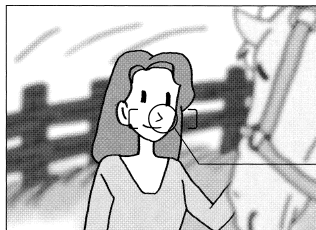
AFエリア：3点AF[⊡]

AFエリア切り替えレバーを[⊡]位置に合わせます。

3点AFでは、ファインダー内の〔　〕の内側でピント合わせを行います。

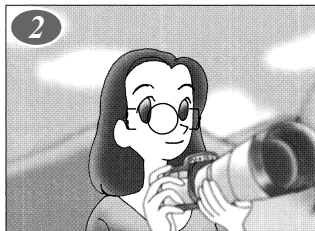
- 〔　〕内に遠近の被写体が混在する場合は、その中で一番手前のものにピントが合います。
- ピントを合わせたいものがAFエリア内にない場合、または、ピントを合わせたくないものがAFエリアに入っている場合は、フォーカスロック撮影を行ってください。(☞38ページ)

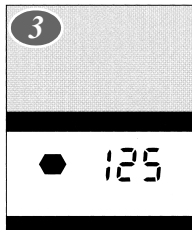
AFエリア：
スポットAF[•]

AFエリア切り替えレバーを[•]位置に合わせます。

● ピントを合わせたいものがAFエリア内にない場合、または、ピントを合わせたくないものがAFエリアに入っている場合には、フォーカスロック撮影を行ってください。(☞ 38ページ)

スポットAFでは、ファインダー内のスポット範囲円の内側だけでピント合わせを行います。

フォーカスロック撮影

このような構図の写真を撮る場合、そのまま撮影すると人物の顔にピントが合わず、手前の被写体にピントが合ってしまいます。
こんな場合は、フォーカスロック撮影を行います。

AFフレーム〘　〙を、ピントが合ってしまった手前の被写体から一旦外し、人物の顔（ピントを合わせたいもの）に合わせます。

● AF エリアの設定が「3 点 AF」で、AFフレーム〘　〙内に遠近の被写体が混在する場合は、その中で一番手前のものにピントが合います。

シャッターボタンを半押しし、ファインダー内の⬣を点灯させたままにします。

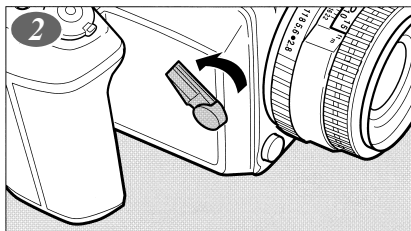
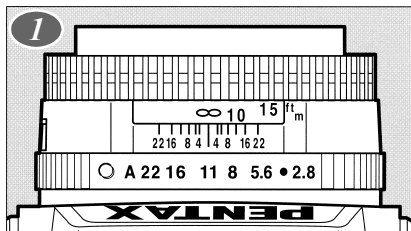
シャッターボタン半押しのまま、構図を元に戻し、シャッターボタンを押しきります。

- シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の⬣が消えるとフォーカスロックは解除されます。
- 別の場所にフォーカスロックするときは、1 度シャッターボタンから指を離してから、再び押しなおしてください。

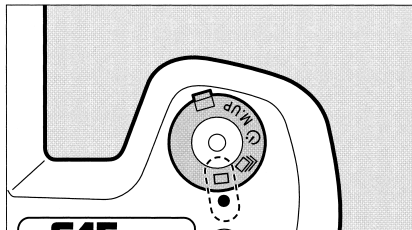
プレビュー（絞り込み）

ファインダー上でおおよその被写界深度（ピントの合う範囲）が確認できます。

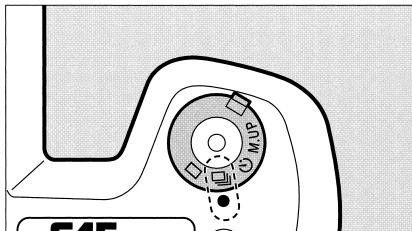
● プレビューレバーを倒すとセットされている値まで絞りが絞られ、ファインダー内の表示は消えます。
● プレビューレバーを倒したままでは、シャッターはきれません。
● プレビューレバーを倒すときは、必ず絞りを🄰位置から外してください。絞りが🄰位置のままでは、最小絞りにまで絞られてしまいます。

1. 絞りを🄰位置以外にします。

2. プレビューレバーを図の方向に倒すと、深度の確認ができます。

1コマ撮影

シャッターボタンを押しきると、1回だけシャッターがきれます。

ドライブダイヤルを回して□位置に合わせます。

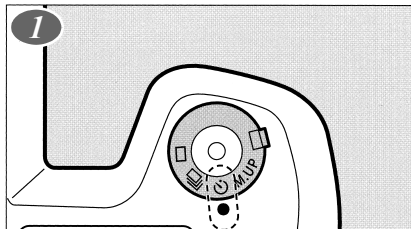
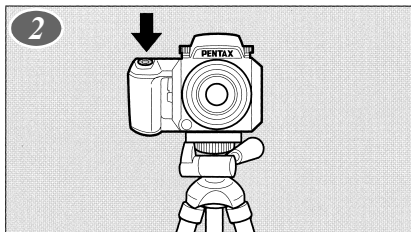
連続撮影

秒間約2コマの速度で連続的にシャッターがきれます。

● AF モードがシングル S では、ピント合わせは1コマ目のみ行われます。2コマ目からは、1コマ目で合わせたピントのまま連続的にシャッターがきれます。

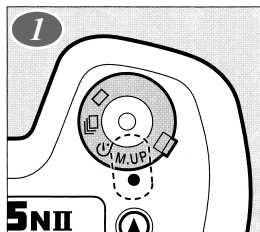
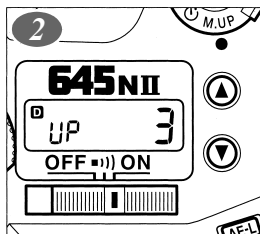
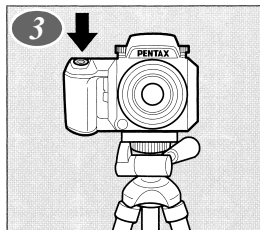
ドライブダイヤルを回して⧉位置に合わせます。

セルフタイマー撮影

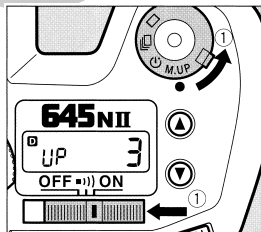
シャッターボタンを押すと、約12秒後にシャッターがきれます。

- セルフタイマーの作動中は電子音で知らせ、シャッターがきれる約2秒前から、電子音も速い断続音になります。
- セルフタイマーを始動後に中止したいときは、ドライブダイヤルを⏲以外の位置にするか電源を切ってください。
- ペンタックスファンクションの設定により、セルフタイマーの作動時間を約2秒間にすることもできます。(☞77ページ)

ドライブダイヤルを回して⏲位置に合わせます。

シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを押しきるとセルフタイマーが始動します。

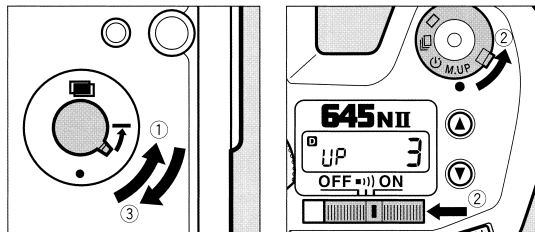
ミラーアップ

● ミラーアップ時は、ミラーアップ直前の露出で固定（AEロック）されます。また、マニュアルでのシャッター速度の変更はできません。
● 電源スイッチが 🔊 位置になっていると、ミラーアップが行われている状態で電子音が鳴ります。
● LS レンズで、レンズシャッターをセットしてミラーアップをすると、レンズシャッターが作動してしまうため、レンズシャッター使用時のミラーアップはできません。
● 長時間、ミラーアップしたままの状態では、電池が早く消耗します。

ドライブダイヤルを回して M.UP 位置に合わせ、シャッターボタンを押します。シャッターボタンは、半押しで止めずに、押しきります。（全押し）

ミラーが上がり、表示パネルに「UP」が点滅表示されます。

さらにもう一度シャッターボタンを押すと、シャッターがきれ、撮影できます。

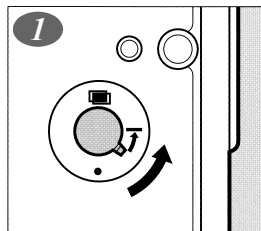
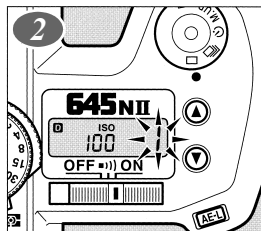
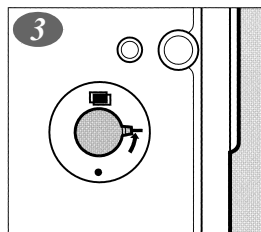
ミラーアップの解除

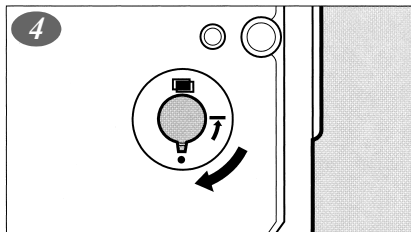
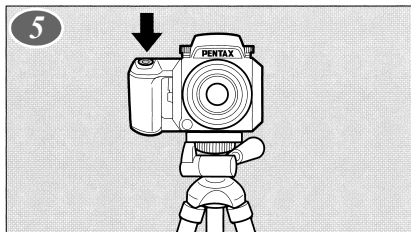
絞り優先自動露出、マニュアル露出、バルブの場合

① ドライブダイヤルを M.UP 以外にするか、電源スイッチをOFFにします。
ミラーアップが解除されます。

- 約5分間放置すると自動解除します。
- ミラーアップの解除時にフィルムが送られるような音がしますが、これは上がったミラーを元に戻す際の作動音です。

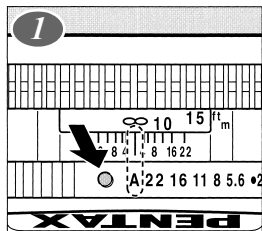
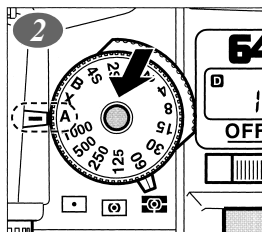
プログラム自動露出、シャッター優先自動露出の場合
（レンズの絞りリング位置Aの場合）

① 多重露出レバーをセットします。
② ドライブダイヤルを M.UP 以外にするか、電源スイッチをOFFにします。
ミラーアップが解除されます。
③ 多重露出レバーを元に戻します。

注意！！
多重露出レバーをセットしないでミラーアップの解除操作をすると、フィルムが1コマ送られてしまいます。
必ず、多重露出レバーのセットを行った上で解除操作をしてください。

多重露出撮影

多重露出レバーを矢印方向に止まるまで回します。

表示パネルのフィルム枚数が点滅します。

多重露出レバーがこの位置では、シャッターをきってもフィルムは巻かれません。

● 例えば3コマの多重露出の場合、2コマ目の撮影後、多重露出レバーを元の ● 位置に戻してから3回目のシャッターをきります。
● 多重露出をセット後に解除したい場合は、多重露出レバーを元の ● 位置に戻してください。
● 多重露出では、撮影したコマにずれを生じることがあります。
● 撮影データのフィルム写し込みを行うように設定している場合、最後のコマの撮影データが写し込まれます。

多重露出の最後のコマのシャッターをきる前に多重露出レバーを元の ● 位置に戻します。

シャッターボタンを押して撮影を行うとフィルムは次のコマまで巻かれます。

露出モード：
プログラム自動露出

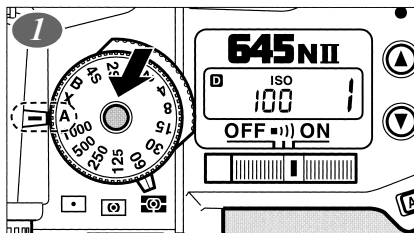
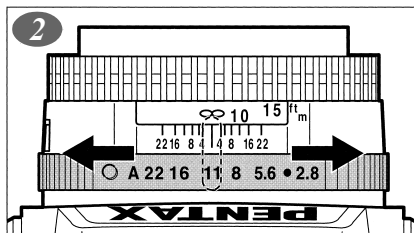
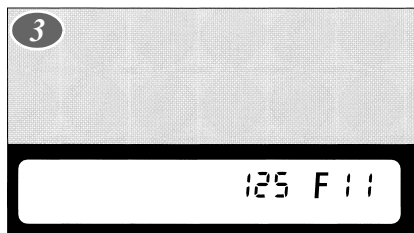
シャッター速度・絞り値ともカメラが自動的に設定を行います。

絞りオートロックボタンを押しながら、絞りをⒶ位置に合わせます。

シャッターダイヤルロックボタンを押しながら、シャッターダイヤルをⒶ位置に合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。

● ファインダー内の表示が点滅している場合、適正露出が得られないことがあります。(☞56ページ)

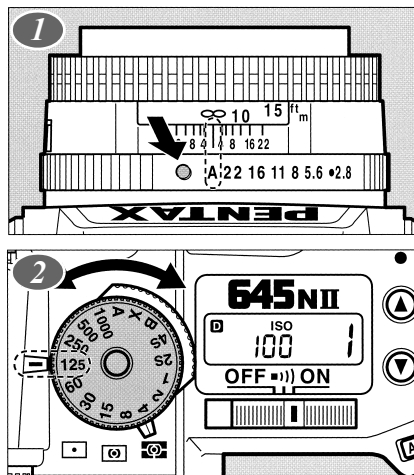
露出モード：
絞り優先自動露出

希望の絞りに合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わります。被写界深度をコントロールしたい撮影に適しています。

- レンズの絞りを Ⓐ 位置から Ⓐ 位置以外にする場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。
- ファインダー内の表示が点滅している場合、適正露出が得られないことがあります。
- ファインダー内に表示される絞り値は目安表示です。従って、絞りリングでセットした絞りと表示される絞り値は必ずしも一致しません。特に、A645 45～85mmF4.5レンズでは小絞り側に、A645 150mmF3.5レンズでは開放絞り側に絞り表示がずれ易くなっています。

シャッターダイヤルロックボタンを押しながら、シャッターダイヤルを Ⓐ 位置に合わせます。

絞りを Ⓐ 位置から外し、好みの絞りを選びます。

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度と絞り値の目安が表示されます。

露出モード：
シャッター優先自動露出

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わります。被写体の動きを表現したい撮影に適しています。

● シャッターダイヤルを Ⓐ 位置からⒶ位置以外にする場合は、シャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。

絞りオートロックボタンを押しながら、絞りをⒶ位置に合わせます。

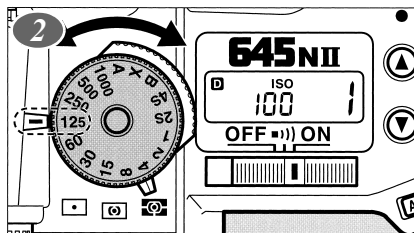
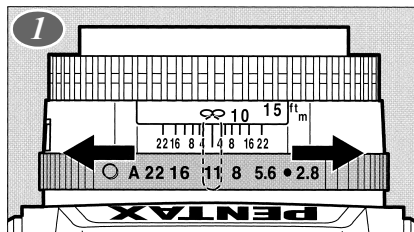
シャッターダイヤルをⒶ位置から外し、好みのシャッター速度を選びます。
シャッター速度は1/2EVステップで設定可能です。（☞ 55ページ）

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。

- ファインダー内の表示が点滅している場合、適正露出が得られないことがあります。（☞56ページ）
- レンズシャッター付レンズを使用しているときは、シャッター速度にLSが表示されます。
- ストロボ撮影で、シャッター速度を1/60秒に固定したい場合や、シャッター速度が自動的に切り替わらないストロボを使用するときはシャッターダイヤルをX（1/60秒）位置に合わせてください。シャッターダイヤルをX位置にしたり、X位置から外す場合は、シャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。

露出モード：
マニュアル露出

常に同じシャッター速度と絞りの組み合わせで撮影をする場合や、意図的に露出オーバー［明るい写真］や露出アンダー［暗い写真］にするときに使います。

● レンズの絞りを Ⓐ 位置から Ⓐ 位置以外にする場合には、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。
● シャッターダイヤルを Ⓐ 位置から Ⓐ 位置以外にする場合には、シャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。

絞りを Ⓐ 位置以外の好みの位置に合わせます。

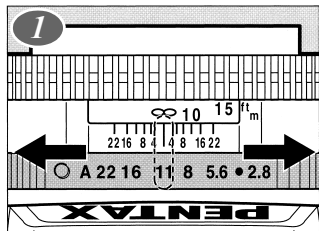
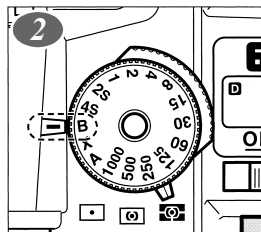
シャッターダイヤルを Ⓐ 位置以外の好みの位置に合わせます。シャッター速度は1/2EVステップで設定可能です。（☞55ページ）

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度と絞り値の目安およびバーグラフが表示されます。

- ファインダー内に表示される絞り値は目安表示です。従って、絞りリングでセットした絞りと表示される絞り値は必ずしも一致しません。
  特に、A645 45～85mmF4.5レンズでは小絞り側に、A645 150mmF3.5レンズでは開放絞り側に絞り表示がずれ易くなっています。
- レンズシャッター付レンズを使用しているときは、シャッター速度にLSが表示されます。
- ファインダー内の表示が点滅している場合、適正露出が得られないことがあります。(☞56ページ)

- ストロボ撮影で、シャッター速度を1/60秒に固定したい場合や、シャッター速度が自動的に切り替わらないストロボを使用するときはシャッターダイヤルをX（1/60秒）位置に合わせてください。シャッターダイヤルをX位置にしたり、X位置から外す場合はシャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。
- バーグラフのIが−側に並んでいるときは露出不足、+側に並んでいるときは露出がオーバーです。中心にあれば適正露出です。
  バーグラフのI 1個は1/3EVに相当します。ただし、±3EVを超えた場合は、−あるいは+が点滅表示します。

露出モード：バルブ

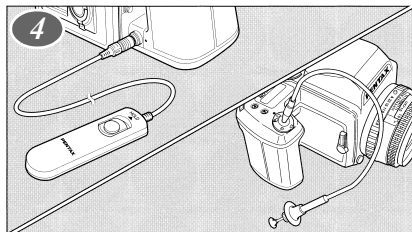
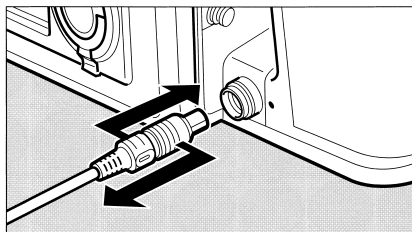
シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。

絞りをⒶ位置から外し、好みの絞りを選びます。

シャッターダイヤルをⒷ位置に合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にbuと絞り値の目安が表示されます。

- レンズの絞りをⒶ位置からⒶ位置以外にする場合には、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。
- 絞りをⒶ位置にすると、常に最小絞りで撮影されてしまいますのでご注意ください。

–つづく–

–つづき–

- ファインダー内に表示される絞り値は目安表示です。従って、絞りリングでセットした絞りと表示される絞り値は必ずしも一致しません。特に、A645 45～85mmF4.5レンズでは小絞り側に、A645 150mmF3.5レンズでは開放絞り側に絞り表示がずれ易くなっています。
- 「ワンタッチケーブルスイッチ」「レリーズタイマースイッチ」「ケーブルレリーズ」でもシャッターボタンの半押しが可能です。
- 新品電池でのバルブ撮影（露出）可能時間については12ページをご覧ください。

バルブ撮影でのレリーズは、別売りの「ワンタッチケーブルスイッチ」「レリーズタイマースイッチ」をワンタッチレリーズソケットに差し込むか、「ケーブルレリーズ」をレリーズネジ穴に取り付けてご使用ください。

※レリーズタイマースイッチ　ワンタッチケーブルスイッチの着脱方法

取り付け方

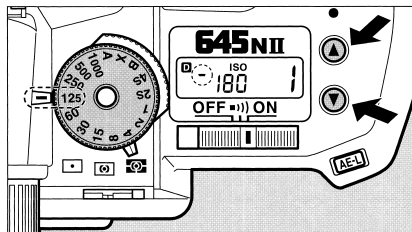
カメラのワンタッチレリーズソケット部の白点指標に、プラグの指標をあわせて差し込みます。ロックを確実にするため、プラグの金属リング部分には手を触れずに取り付けてください。

取り外し方

プラグの金属リング部分を持ち、まっすぐに引きます。

レリーズタイマースイッチ、ワンタッチケーブルスイッチの操作方法などについては、それぞれの説明書をご覧ください。

1/2EVステップのシャッター速度設定方法

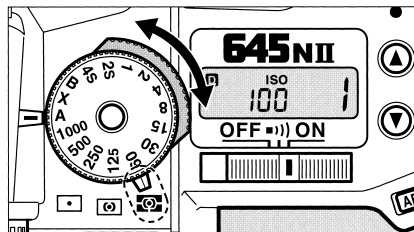
- 1/2EV ステップのシャッター速度設定は、シャッターダイヤルを操作するか、一旦電源をOFF にすると解除されます。
- 1/1000　より高速側のシャッター速度は設定できません。
- ペンタックスファンクションの設定により、1/2EV ステップのシャッター速度の設定を不可にし、1EVステップのシャッター速度設定にすることも可能です。(☞76ページ)

1 シャッターダイヤルで任意のシャッター速度（1EVステップ）を選びます。

2 選んだシャッター速度に対して、アップボタンを押すと1/2EV高速側に、ダウンボタンを押すと1/2EV低速側にシャッター速度が変化します。

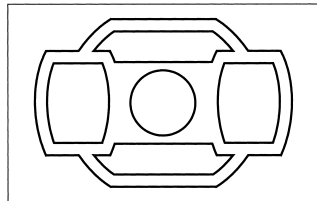
設定したシャッター速度は、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
表示パネルの表示には、シャッター速度を高速側に変化させたときはシャッター速度表示の左上に「－」が、低速側に変化させたときは左下に「－」が点滅します。

露出警告について

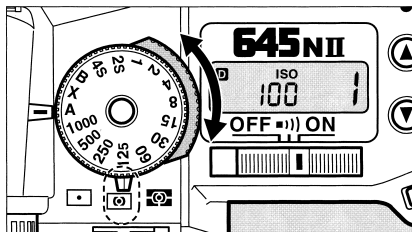
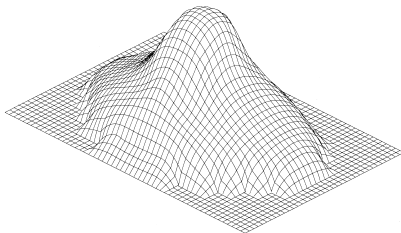
被写体が明るすぎたり暗すぎたり、設定した露出値が不適切な場合、ファインダー内の表示が点滅して警告をします。各露出モードで、どの表示が点滅するかにより、警告の意味は異なります。

測光モード：分割測光

測光モード切り替えレバーを図の部分を持って⊡位置に合わせます。

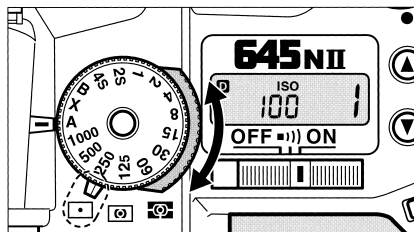
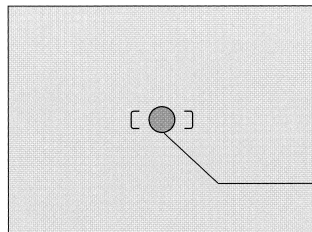
分割測光について

図のように、画面内を6つに分割して明るさを測る6分割測光を行っています。
この測光モードでは逆光などで人物が暗くなってしまうような条件でも、どの部分にどんな明るさの物があるかをカメラが判断し、人物が暗くならないように自動的に補正を行います。

● 67レンズ用アダプター645やヘリコイド接写リング645など、絞りⒶ位置で使用できないアクセサリーを付けた場合、分割測光を選択しても中央重点測光になります。

測光モード：
中央重点測光

分割測光のようにカメラ任せで露出を決めるのではなく、経験的に補正をして明るさを決める場合などに使います。

測光モード切り替えレバーを図の部分を持って⦾位置に合わせます。

● 測光分布は、図のようになっており、高さが高い部分（中央部分）ほど感度が高いことを表わしています。

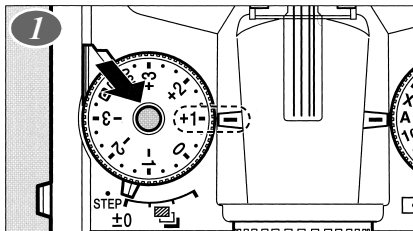
測光モード：
スポット測光

スポット測光は、限られた狭い範囲だけの明るさを測りたいときに使います。

測光モード切り替えレバーを図の部分を持って⊡位置に合わせます。

画面中央の限られた狭い範囲だけの明るさを測ります。

● 中央部とそれ以外の周辺部との明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまいます。

露出補正

カメラの露出計が決定した露出値に対し、意図的に露出オーバー［明るい写真］や露出アンダー［暗い写真］にしたいときなどに使います。

- 露出補正は、−3 1/3EV〜＋3 1/3EVの範囲で1/3EVステップで行えます。
- バーグラフの目盛り1つは1/3EVに相当し、その上の▯は補正量−3EV〜＋3EVの範囲で点灯表示されます。
- 補正量が−3 1/3EVと＋3 1/3EVの場合のみ、▯は表示されず、それぞれバーグラフの⊟と⊞が点滅表示されます。

露出補正ダイヤルを0位置から露出補正ダイヤルロックボタンを押しながら回して、好みの補正値を選びます。

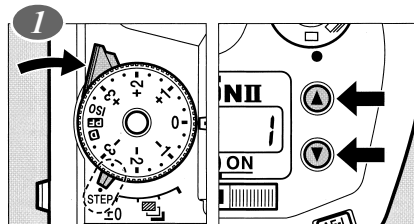
ファインダー内に補正値を示すバーグラフと⊠が表示されます。

- ペンタックスファンクションの設定により、露出補正のステップを1/2EVにすることもできます。（☞78ページ）
- マニュアル露出での露出補正では、ファインダー内に露出補正値を示すバーグラフは表示されず、マニュアル露出のオーバー・アンダーを示すバーグラフだけが表示されます。ただし、⊠は表示されます。露出補正ダイヤルで補正値を設定した後、バーグラフの▯を中心に合わせれば、設定した補正値での撮影ができます。
- バルブでは露出補正は使えません。

オートブラケット撮影

露出の異なる写真を、自動的に3枚連続で撮影します。

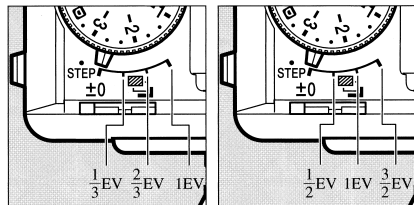
オートブラケット撮影の補正量を決定する前に、補正量のステップの設定を行います。ステップは、1/3EVまたは1/2EVのいずれかが選択できます。

●補正量のステップ設定

オートブラケットレバーを STEP 位置に押しつけます。
アップ／ダウンボタンを操作すると、補正量のステップが表示パネルに表示されます。オートブラケットレバーは指を離すと自動的に ±0 位置に戻り、補正量のステップが設定されます。

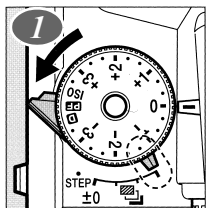
1/3EV設定時

1/2EV設定時

●補正量の決定

1/3EVステップ設定時　1/2EVステップ設定時

オートブラケットレバーを ±0 位置から 側に動かし、補正量を決定します。
補正量は、設定した補正量のステップと、オートブラケットレバーの位置により決まります。

● オートブラケットの撮影順序は初期設定では、1コマ目＝±0、2コマ目＝アンダー側、3コマ目＝オーバー側となります。この撮影順序はペンタックスファンクションの設定により変更が可能です。(☞77ページ)
● 1 コマ目の撮影後は、シャッターボタンから指を離しても、ファインダー内の表示が消えるまでオートブラケット撮影の状態を維持します。ファインダー内の表示が消えると、1コマ目撮影前の状態に戻ります。
● 測光は1コマごとに行われます。
● AF モードがシングルでシャッターボタンを押したまま3コマ連続で撮影を行う場合、ピントは1コマ目の位置で固定されます。AF モードがコンティニアスの場合は1コマごとにAFが作動します。

●撮影手順

オートブラケットレバーを希望の補正量に合わせ、シャッターボタンを押しつづけます。設定した補正量ずつ露出の異なる3枚の写真が連続で撮影できます。

ファインダー内のバーグラフ表示は、これから撮影するコマの露出位置を表すが点滅表示され、他のは点灯表示されています。の点滅位置は1コマ撮影するごとに移動します。

露出補正との組み合わせ

露出補正と組み合わせた場合、補正した値を基準にしてオートブラケットが働きます。その際のファインダー内表示については、63、64ページをご覧ください。

マニュアル露出との組み合わせ

マニュアル露出（シャッターダイヤル☒位置を除く）でもオートブラケット撮影ができます。この場合、シャッター速度だけが段階的に変化します。ファインダー内には、露出値を示すバーグラフは表示されますが、補正値を示すバーグラフは表示されません。

オートブラケットと露出補正の組み合わせ表示例（ブラケット補正ステップ1/3EVの場合）

オートブラケットの補正量	露出補正値	ファインダー内表示
1/3EV	補正なし	
	＋1/3EV	
	＋1/2EV（※）	
	＋2/3EV	
	＋1EV	

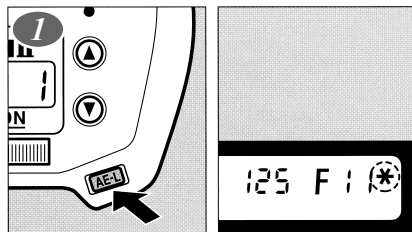
上表のファインダー内表示は1コマ目撮影前の状態で、▯は点滅表示、▮は点灯表示を表しています。
（※） ペンタックスファンクションで1/2EVステップの露出補正を設定した場合のみ

オートブラケットと露出補正の組み合わせ表示例（ブラケット補正ステップ1/2EVの場合）

オートブラケットの補正量	露出補正値	ファインダー内表示
1/2EV	補正なし	
	＋1/3EV	
	＋1/2EV（※）	
	＋2/3EV	
	＋1EV	

上表のファインダー内表示は1コマ目撮影前の状態で、▯は点滅表示、▮は点灯表示を表しています。
（※）　ペンタックスファンクションで1/2EVステップの露出補正を設定した場合のみ

AEロック撮影

AEロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。被写体が非常に小さく適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

露出を合わせたい物にカメラを向け、AEロックボタンAE-Lを押すと露出が記憶され、ファインダー内に✱が表示されます。

- AEロックボタンAE-Lを押してから20秒間はタイマーが働き、ボタンから指を離しても露出が記憶されています。この記憶時間は、測光タイマーの設定時間の約2倍にあたるので、ペンタックスファンクションで測光タイマーの時間を20秒もしくは30秒に設定すれば、それぞれ約40秒、約60秒になります。(☞76ページ)
- AEロック中にシャッターボタンを半押ししたままにすると、AEロックボタンAE-Lから指を離してもAEロックはそのまま継続します。
- AEロック中にもう一度AEロックボタンAE-Lを押すと、AEロックが解除されファインダー内の✱が消えます。
- マニュアル露出とバルブではAEロックはできません。

ストロボの使い方

● ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の⚡も点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
● ストロボの詳細については、ストロボの説明書をご覧ください。
● ⚡の点滅は、露出モードがプログラム・絞り優先では被写体が暗い場合と逆光の場合に、シャッター優先自動露出では逆光の場合にのみ表示されます。ただし、逆光時に⚡が点滅するのは、測光方式が分割測光の場合だけです。

TTLオートで使います

1. カメラのホットシューに付いているホットシューカバーFKを外し、ストロボを取り付けます。
2. ストロボの電源スイッチを入れます。
3. ストロボの発光モードをTTLオートにします。
4. ストロボの充電完了を確認します。
5. ピントを合わせて撮影します。

ストロボお勧めマークについて

シャッターボタン押しでファインダー内にストロボお勧めマーク⚡が点滅した場合、シャッター速度が低速になり手ぶれを起こしやすくなります。三脚をお使いいただくか別売のストロボをご使用ください。⚡マークが点滅したまま撮影しても露出には問題ありません。

露出補正について

TTLオートストロボ撮影で露出補正を行うと、ストロボ光量と背景の明るさを同時に変えることができます。ただし、マニュアル露出では、補正後そのまま撮影を行うと、ストロボの光量だけが変化し、バーグラフのIを中心に合わせると、背景とストロボ光の両方が補正されます。

当社製ストロボとの組み合わせ時の機能一覧

機能 ＼ ストロボ名	A AF540FGZ AF500FTZ AF360FGZ AF330FTZ	B AF400FTZ AF240FT	C AF400T AF280T AF200T AF140C AF080C	D AF200SA	E AF200S AF160 AF140
TTLオートストロボ撮影	○	○	○	×	×
外光オートストロボ撮影	○ 注1	×	○ 注2	○	○
後幕シンクロ撮影	○	○	×	×	×
光量比制御シンクロ撮影	○	×	×	×	×
ファインダー内でのオートチェック確認	○	○	×	×	×
AF補助光（スポットビーム）の投光	○	○	×	×	×
ストロボの充電完了時、ストロボ同調速度へのシャッター速度自動切換	○	○	○	○	○
プログラム自動露出およびシャッター優先自動露出時の、絞り値自動セット	○	○	○ 注3	○	△ 注4
シャッター優先自動露出、マニュアル露出時の低速シンクロ撮影	○	○	○ 注5	○	△ 注4

注1：AF500FTZ・AF330FTZは、外光オートストロボの機能がありません。

注2：AF140C・AF080Cは、外光オートストロボの機能がありません。

注3：ストロボの発光モードがMS（マニュアルシンクロ）・M（マニュアル）の場合、絞り値が自動的に変化してしまい使用できません。絞り優先自動露出・マニュアル露出・バルブでご使用ください。

注4：絞り値が自動的に変化してしまい使用できません。絞り優先自動露出・マニュアル露出・バルブでご使用ください。

注5：ストロボの発光モードがMS（マニュアルシンクロ）・M（マニュアル）の場合、シャッター優先自動露出では、絞り値が自動的に変化してしまい使用できません。

AF540FGZ、AF500FTZ、AF330FTZ、AF360FGZ

- 暗くてオートフォーカスの苦手な物でも、AF補助光（スポットビーム）を自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。［FA645レンズ使用時のみ］
- スレーブ機能がご利用できます。［AF540FGZ、AF500FTZ、AF360FGZ］
- ストロボの液晶表示で、撮影可能距離を確認できます。
- マルチ発光モードがご利用できます。［AF500FTZのみ］
- 露出モードがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボの発光モードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後約3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。
  ［AF540FGZ、AF360FGZはTTLモード時のみ約3分。その他のモードでは時間が異なります。］

AF240FT、AF400FTZ

- 暗くてオートフォーカスの苦手な物でも、AF補助光（スポットビーム）を自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- 露出モードがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボの発光モードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF200T、AF280T、AF400T

- TTLオートモードで使用すると、周りの明るさによってシャッター速度が1/60秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はレンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ［LSレンズを含む］使用時は1/60秒固定になります。絞り値は固定となりますが、フィルム感度により変化します。

● 外光オート［赤・緑・黄位置］で使用すると、絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/60秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ［LSレンズを含む］使用時は1/60秒固定になります。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄			F11

［ISO100の場合］

ストロボの多灯撮影

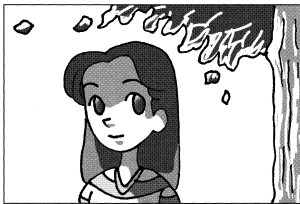
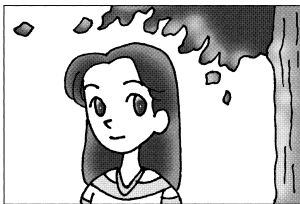
2個以上のストロボを同時に使用する場合は、67ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうし（A～E）を組み合わせるか、AとBあるいはCとDの組み合わせでお使いください。

他社製ストロボを使用する場合

- 他社製ストロボ［特に高電圧や高電流のストロボ］を組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。
- カメラのXシンクロソケットにコードを接続した場合は、連動機能は働きません。
- 後幕によるケラレを防ぐため、念のため、同調速度より一段低いシャッター速度を使用し、事前にテスト撮影をされることをお勧めします。

日中シンクロ撮影

昼間の明るいときでも、人物の顔に影が出てしまうような場合に、ストロボを利用すると影の取れたきれいな写真が撮れます。

日中シンクロのやり方は、一般のストロボ撮影と基本的に同じです。ただし、背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。

ストロボなし

ストロボ使用

低速シンクロ撮影

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに写せます。

マニュアル露出の場合

1. ストロボの電源スイッチを入れます。
2. マニュアル露出にします。
3. 適正露出になるように適当なシャッター速度［1/60秒以下の低速］と絞りを選びます。
4. 撮影します。

● マニュアル露出では、1 の操作は撮影前のどの時点で行なっても結構です。

シャッター優先自動露出の場合

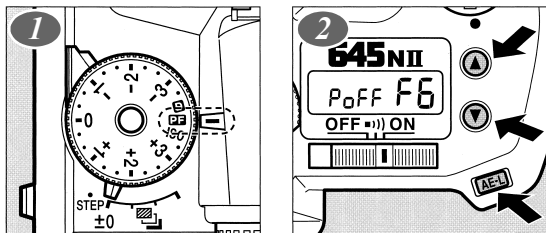
1. シャッター優先自動露出にします。
2. 好みのシャッター速度を選びます。
3. ストロボの電源スイッチを入れます。
4. 撮影します。

● ファインダー内の絞り値表示が点滅していると背景が適正露出になりませんので、点滅がなくなるシャッター速度を設定してください。
● 2 の操作の前にストロボの電源を入れると、背景が適正露出になりませんので、シャッター速度を選んでから電源を入れてください。
● 低速シンクロの場合は、手ぶれを防ぐため三脚をご使用ください。

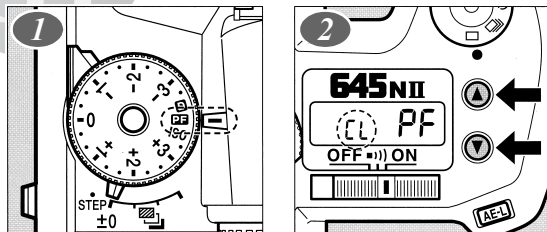
ペンタックスファンクション（PF）

645NⅡには、撮影スタイルに合わせてカメラの機能を設定できる、10項目（F0～F9）のペンタックスファンクション機能があります。

[F0]	ボディ識別記号の設定	☞75ページ
[F1]	シャッター速度のステップ設定	☞76ページ
[F2]	測光タイマーの時間設定	☞76ページ
[F3]	オートブラケット撮影の順序設定	☞77ページ
[F4]	セルフタイマーの作動時間設定	☞77ページ
[F5]	露出補正のステップ設定	☞78ページ
[F6]	プログラムシフトの設定	☞79ページ
[F7]	フィルムカウンターの設定	☞80ページ
[F8]	撮影本数とフィルムカウンターのファインダー内表示設定	☞80ページ
[F9]	撮影可能枚数の設定	☞82ページ

ペンタックスファンクションの設定方法

1. 露出補正ダイヤルを回し、PFに合わせます。
   表示パネルに、ファンクションNo.と、その設定内容が表示されます。
2. まず、ファンクションNo.（F0～F9）をアップ／ダウンボタンで選択し、それぞれのファンクションの設定内容をAEロックボタンAE-Lで選択します。
3. 露出補正ダイヤルを元に戻すと、選択した内容はそのまま設定されます。

- 露出補正ダイヤルを0位置から切り替えるには、露出補正ダイヤルロックボタンを押しながら回します。
- 露出補正ダイヤルがPF位置では、シャッターはきれません。

ペンタックスファンクションをすべて初期設定に戻す方法（ペンタックスファンクションのクリアー）

1. 露出補正ダイヤルを回し、PFに合わせます。
2. アップ／ダウンボタンを同時に2秒以上押すと、表示パネルにCLが表示され、ファンクションの内容がすべて初期の設定（工場出荷時の状態）に戻ります。
3. 露出補正ダイヤルを元に戻すと、選択した内容はそのまま設定されます。

● 露出補正ダイヤルを0位置から切り替えるには、露出補正ダイヤルロックボタンを押しながら回します。

[F0] ボディ識別記号の設定

アルファベットA～Gの中からボディ識別記号を設定できます。フィルムへのデータ写し込みを有効にしていると、選んだボディ識別記号がその一番左に写し込まれます。
複数の645NⅡボディをお持ちの方は、それぞれに異なるボディ識別記号を設定しておくと、現像後のフィルムがどのボディで撮影されたものなのか判別しやすくなります。

①写し込みなし（初期設定）

②ボディ識別記号：A

③ボディ識別記号：B

④ボディ識別記号：C

⑤ボディ識別記号：D

⑥ボディ識別記号：E

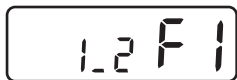
⑦ボディ識別記号：F

⑧ボディ識別記号：G

- 表示パネルのアルファベットの表示は、大文字と小文字が混在していますが、データ写し込みの文字はすべて大文字になります。
  写し込み内容については84ページをご覧ください。

[F 1] シャッター速度のステップ設定

シャッター優先自動露出およびマニュアル露出時に、シャッター速度を1/2EVステップで選択できるようにするか、シャッターダイヤルの表示どおりに1EVステップで選択するかを設定します。

①1/2EVステップ（初期設定）

②1EVステップ
（シャッターダイヤルの表示どおり）

[F2] 測光タイマーの時間設定

シャッターボタン半押しで、露出計のスイッチが入り自動的に切れるまでの時間を設定します。

①10秒（初期設定）

②20秒

③30秒

[F3] オートブラケット撮影の順序設定

オートブラケット撮影の順序を設定します。

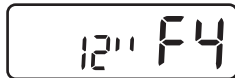
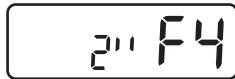
①適正→アンダー→オーバー（初期設定）

②アンダー→適正→オーバー

③オーバー→適正→アンダー

[F4] セルフタイマーの作動時間設定

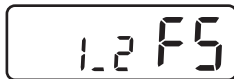
セルフタイマー撮影時の、シャッターボタンを押してから、シャッターがきれるまでの時間を設定します。

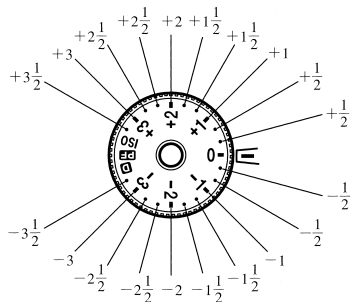
①12秒後（初期設定）

②2秒後
（自動的にミラーアップ）

- 「2秒後」を設定した場合、シャッターボタンを押した直後に自動的にミラーアップが行われ、その2秒後にシャッターがきれます。
- 「2秒後」を設定した場合、シャッターボタンを押した後の途中解除はできません。

[FS] 露出補正のステップ設定

露出補正の補正ステップを設定します。

①1/3EVステップ（初期設定）
（ダイヤルの表示どおり）

②1/2EVステップ

「1/2EVステップ」を設定した場合について

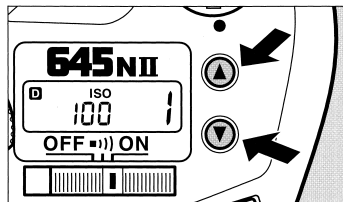
露出補正ダイヤルは1/3EVステップで目盛りが刻まれていますが、「1/2EVステップ」を設定した場合は、目盛りを1/3EV位置、2/3EV位置のどちらに合わせても、補正量は1/2EVになります。

ファインダー内表示は、バーグラフ上の▯が2コ点灯し、補正ステップが1/2EVであることを示します。

● 「1/2EVステップ」を設定した場合、露出補正の行える範囲は－3 1/2EV～＋3 1/2EVになります。

[F6] プログラムシフトの設定

プログラム自動露出時の、プログラムシフト操作を無効にするか、有効にするかを設定します。

①無効（初期設定）

②有効

「有効」を設定した場合について

プログラム自動露出時にアップ／ダウンボタンを押すと、1/2EVステップでプログラムシフトができます。ボタンを押しつづけると、連続的にシフトします。

- アップボタンを押すとシャッター速度が速く絞りが開放方向に、ダウンボタンを押すとシャッター速度が遅く絞りが絞られる方向にシフトします。
- シフトしたシャッター速度と絞り値は、ファインダー内表示で確認できます。
- プログラムシフト行われているかどうかは、確認することができません。
- プログラムシフトはシャッターをきっても解除されません。解除するには、一旦電源をOFFにするか、露出モードを変更してください。

[F7] フィルムカウンターの設定

フィルムカウンターの表示を、加算表示にするか、減算表示にするかを設定します。

①加算表示（初期設定）

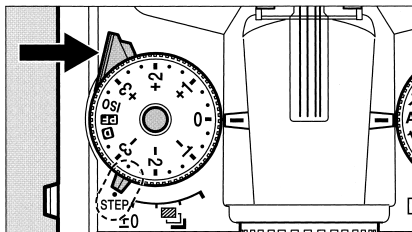
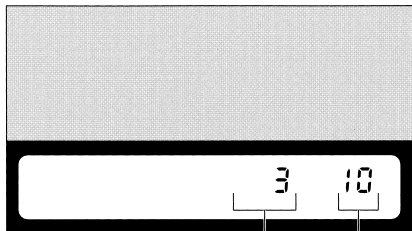
②減算表示

● フィルムカウンターの設定は、フィルムをカメラにセットした後でも変更可能です。

[F8] 撮影本数とフィルムカウンターのファインダー内表示設定

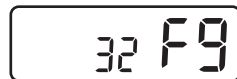
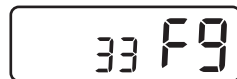
オートブラケットレバーを STEP 位置に押し付けた際に、フィルムの撮影本数とフィルムカウンターの表示を、ファインダー内表示に、表示させないか、表示させるかを設定します。

①表示させない（初期設定）

②表示させる

「表示させる」を設定した場合の表示方法
オートブラケットレバーを STEP 位置に押し付けます。ファインダー内表示に、フィルムの撮影本数とフィルムカウンターが表示されます。
オートブラケットレバーは指を離すと、自動的に ±0 位置に戻ります。

[F9] 撮影可能枚数の設定

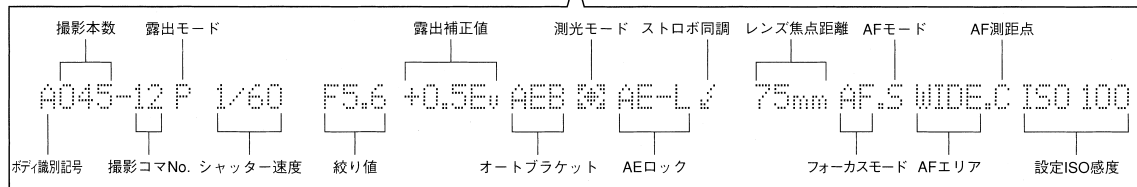
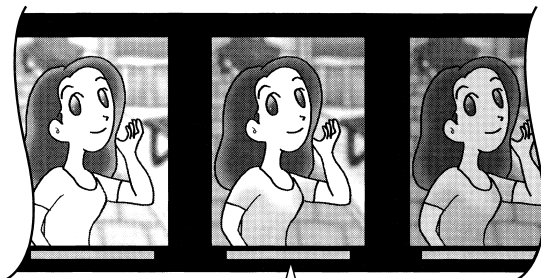
120フィルム・220フィルムを使用した際に撮影できる枚数を設定します。
撮影可能枚数の設定は、装着したフィルムバックの種類により、設定時の表示パネルの表示が異なります。

120フィルムバック装着時　220フィルムバック装着時

①15枚・32枚撮り（初期設定※）
120フィルム使用時……15枚撮り
220フィルム使用時……32枚撮り

②16枚・33枚撮り
120フィルム使用時……16枚撮り
220フィルム使用時……33枚撮り

※特定の条件においてフィルムの巻きぐせ現象が発生するのを防止するため、初期設定は「15枚・32枚撮り」になっています。特定の条件とは、「16枚・33枚撮り」を設定し、フィルム装てん後または撮影後約30秒以上放置し、絞り値をF5.6付近より開放側で2コマ以上の連続する撮影をした場合の2コマ目を指し、このコマでのみフィルムの巻ぐせにより画面の一部にピントのずれが起きるおそれがあります。以上は、フィルム個々の特性・温度・温度などの条件により異なります。

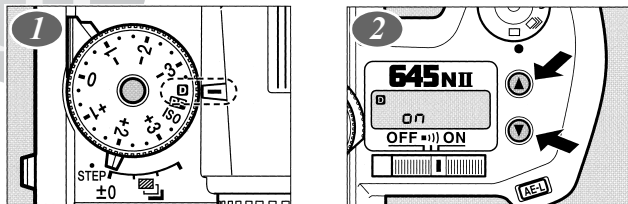
- フィルムバックを装着していない時の表示パネルの表示は、120フィルムバックを装着したときと同じです。
- 撮影可能枚数の設定ができるのは、カメラにフィルムをセットし1コマ目の撮影を行うまでです。
  1コマ目の撮影以降は、そのフィルムを取り出すまで設定の変更はできません。

撮影データの写し込み

撮影時の露出モード・シャッター速度・絞り値などの撮影データをフィルムに写し込むことができます。
撮影データは、下図のようにフィルムの撮影画面外に写し込まれます。詳しくは、84ページをご覧ください。

- 撮影データの写し込みは、表示パネルに D が表示されている時に行われます。また、撮影データを写し込まないようにすることもできます。（☞86ページ）
- 撮影データの文字がフィルム上に印刷してある文字と重なることがあります。

項目	写し込み内容
ボディ識別記号	ペンタックスファンクションで設定したボディ識別記号が写し込まれます。初期設定では写し込みはなしになっています。（☞75ページ）
	写し込み例　空白（写し込みなし）、A、B、C、D、E、F、G
撮影本数	そのボディで撮影したフィルム本数を1～199の範囲で写し込みます。撮影本数が199を超えた時と、撮影データの写し込み機能を一旦OFFにすると、本数は1に戻ります。
撮影コマNo.	撮影コマNo.を1～95の範囲で写し込みます。ペンタックスファンクションで撮影枚数表示を逆算表示にしていても、写し込みは順算で行われます。
露出モード	プログラム自動露出はP、絞り優先自動露出はAv、シャッター優先自動露出はTv、マニュアル露出はM、バルブ時はBUと写し込まれます。
シャッター速度	撮影時ファインダー内に表示されたシャッター速度が写し込まれます。バルブ撮影時は9999秒までの露光時間が写し込み可能で、それ以上はBULBと写し込まれます。LSレンズ使用時はLS、シャッターダイヤルのX位置使用時はXと写し込まれます。
	写し込み例　1/1000、1/60、10”、30”、4”、9999”、BULB、LS、Xなど
絞り値	撮影時ファインダー内に表示されたF値が写し込まれます。ヘリコイド接写リングなど、情報接点のないアクセサリーを使用した場合はF--が写し込まれます。
露出補正値	露出補正を行わなかった場合は±0.0Evと写し込まれます。オートブラケット撮影を行った場合はその補正値が写し込まれ、露出補正と併用した場合は加算値が写し込まれます。
	写し込み例　＋0.4Ev、＋2.0Ev、－0.7Ev、－0.3Ev、±0.0Evなど
オートブラケット	オートブラケット撮影を行った場合、AEBと写し込まれます。行わなかった場合は、空白（写し込みなし）になります。
測光モード	分割測光は、中央重点測光は、スポット測光はが写し込まれます。

項目	写し込み内容	
AEロック	AEロックを行った場合、AE-Lと写し込まれます。行わなかった場合は、空白（写し込みなし）になります。	
ストロボ同調	67ページの当社製ストロボ（A～E）でストロボ撮影を行った場合、⚡が写し込まれます。ストロボ撮影を行わなかった場合、または他社製ストロボで撮影を行った場合は、空白（写し込みなし）になります。	
レンズ焦点距離	FA645レンズを使用した場合、使用したレンズの焦点距離が写し込まれます。ズームレンズを使用した場合は焦点距離の近似値、A645レンズおよびリアコンバーターなどのアクセサリーを使用した場合は--mmが写し込まれます。	
	写し込み例	45mm、55mm、75mm、80mm、100mm、160mm、300mm、- - mmなど
フォーカスモード	オートフォーカスを行った場合はAF、マニュアルフォーカスを行った場合はMFが写し込まれます。	
AFモード	シングルAFにした場合はS、コンティニアスAFにした場合はCが写し込まれます。マニュアルフォーカスを行った場合は空白（写し込みなし）になります。	
AFエリア	3点AFを行った場合はWIDE、スポットAFを行った場合はSPOTが写し込まれます。マニュアルフォーカスを行った場合は空白（写し込みなし）になります。	
AF測距点	AFエリアを3点AFに設定した場合、どの測距点でAF合焦が行われたかが写し込まれます。左はL、中央はC、右はRが写し込まれます。スポットAFを行った場合、マニュアルフォーカスを行った場合、コンティニアスAFでAF合焦しない状態でシャッターをきった場合は空白（写し込みなし）になります。	
設定ISO感度	設定したISO感度が6～6400の範囲で写し込まれます。	

撮影データ写し込みのON／OFF

1 露出補正ダイヤルを露出補正ダイヤルロックボタンを押しながら0位置から外し、D位置に合わせます。

2 アップ／ダウンボタンを押すたびに、表示パネルの表示が切り替わります。
露出補正ダイヤルをD位置から外すと、データ写し込みのONまたはOFFが設定されます。

データ写し込みON

データ写し込みOFF

- 工場出荷時の設定では、撮影データの写し込みはONになっています。
- 多重露出撮影では、最後のコマのデータだけが写し込まれます。
- まれに撮影データの写し込みが撮影画面内にわずかにかかることがあります。大事な被写体が画面右端にくる場合（横位置撮影時）は、念のためにデータの写し込みをOFFにしてください。ただし、写し込みを一旦OFFにすると、撮影本数の写し込みが1に戻ります。

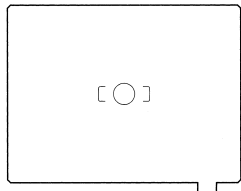
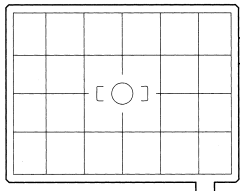
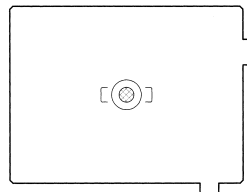
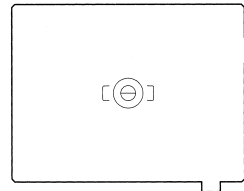
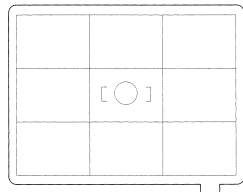
専用アクセサリー［別売］

各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、サービス窓口にお問い合わせください。

- **ワンタッチケーブルスイッチCS-105／CS-130**
  645NII、MZ-Sに使えるレリーズコード。
- **レリーズタイマースイッチTS－110**
  インターバルセルフタイマー機能を備えたレリーズコード。
- **ケーブルレリーズ30／50**
  レリーズネジ穴のあるカメラに使えるレリーズコード。
- **マグニファイヤー 645**
  ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリー。
- **レフコンバーター 645**
  ファインダーを見る角度を90°間隔に変えることができるアクセサリー。
- **オートストロボAF540FGZ／AF500FTZ／AF360FGZ**
  それぞれガイドナンバーが最大54／50／36のAF補助光内蔵オートズームストロボ。スレーブ機能や先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。
- **ホットシューアダプター FG、延長コードF5P、オフカメラシューアダプター F**
  AF540FGZやAF360FGZなどのオートフォーカス一眼レフ用ストロボをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。
- **フィルター**
  スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。フィルター径は49mm・52mm・58mm・67mm・77mmの5種類です。
- **リモートバッテリーパック645**
  寒冷地などで使用する電池保温用のアクセサリー。
- **フィルムバック645**
  120フィルム用と220フィルム用の2種類があります。
- **AF400Tブラッケット645**
  AF400Tをカメラに付けるためのアクセサリー。
- **クイックシュー**
  カメラと三脚の迅速な着脱を可能にするアクセサリー。クイックシューベースQS-B1とクイックシューアダプター QS-20を組み合わせて使用します
- **645ソフトケース（ブラック）**
  柔らかいバックスキンタイプのケースです。

● 交換フォーカシングスクリーン

フォーカシングスクリーンは、標準スクリーンを含め下記の4種類が用意されております。
交換方法については、スクリーンの使用説明書をご覧ください。

AS-80（AFセンタースポットマット）
一般撮影用、標準品

AG-80（AF方眼マット）
構図設定用（9mm間隔の方眼付）

AB-82（AFスプリットイメージマット）
スプリットイメージ付

AA-82（AFマイクロプリズムマット）
マイクロプリズム付

AL-80（AF9分割マット）
構図設定用（縦横3分割ずつのライン入り）

アクセサリーの注意

● 接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリーを使用した場合や旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないものの場合は、絞りをA位置から外してご使用ください。
● 一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスおよび露出の精度が低下します。円偏光フィルターの使用をお勧めします。
● リモートバッテリーパック645を使う場合、カメラ本体の電池ホルダーがセットされていないと電源が入りません。

リアコンバーターについて

レンズの種類や被写体（光）の状態により、露出補正が必要になることがあります。
おおよそ－1EVくらいまでのマイナス補正が必要なことが多いですが、実写で確認することをお勧めします。

オートベローズ645について

ダブルレリーズAが同梱されていないオートベローズ645をこのカメラに使用しても、シャッターがきれません。別売りのダブルレリーズAを下記のように取り付けてご使用ください。

〈ダブルレリーズAの取り付け方法〉

1. 赤い輪の付いている方をオートベローズ 645 の前枠下側の赤い輪の付いているレリーズ穴にねじ込みます。
2. もう一方をカメラのレリーズねじ穴にねじ込みます。

ダブルレリーズAを押したとき、レンズが最小絞りまで絞られた後、シャッターがきれるように調整をしてください。最小絞りまで絞られる前にシャッターがきれるときは、先端に赤い輪が付いている方のレリーズの出方を多く、または、もう一方の出方を少なくしてください。

〈ダブルレリーズAの調整方法〉

先端のつまみを先の方から見て左方向に回してから、先端のつまみを押さえ、後方のつまみを同様に左方向に回して固定するとレリーズの出方が多くなります。逆に後方のつまみを右方向に回してから、後方のつまみを押さえ、先端のつまみを右方向に回すと出方が少なくなります。

こんなときは？

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因	処置	参照ページ
シャッターがきれない。	フィルムの規定枚数を撮り終えている。	フィルムを取り出してください。	22ページ
	電源がOFFになっている。	電源をONにしてください。	13ページ
	バッテリー警告[電池マーク]が出ている。	電池を交換してください。	11、14ページ
	セルフタイマーになっている。	セルフタイマーを解除してください。	42ページ
	露出補正ダイヤルがISO PF D位置になっている。	露出補正ダイヤルをISO PF D位置以外に合わせます。	21、60、73、86ページ
フィルム枚数が[1]にならない。	フィルム装填後電源をONにしシャッターボタンを押していない。	フィルム装填後電源をONにしシャッターボタンを押してください。	20ページ
表示パネルに表示が出ない。	電源がOFFになっている	電源をONにしてください。	13ページ
	電池が入っていない。	電池を入れてください。	11ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	11ページ
	電池が完全に消耗している。	電池を交換してください。	11ページ
ピントが合わない。	ピントを合わせたい被写体にAFフレーム[ ]が合っていない。	被写体をAFフレーム[ ]に入れて撮影してください。	28ページ
	被写体に近づきすぎている。	被写体から離れてください。	29ページ
	レンズがマニュアルフォーカスになっている。	レンズをオートフォーカスにしてください。	30ページ
	被写体がオートフォーカスの苦手な物	フォーカスロックをするか、マット部分でのマニュアルフォーカスをしてください。	33、38ページ

症状	原因	処置	参照ページ
	ピントは合っているが、ブレている。	手ブレの場合は三脚などをご使用ください。被写体ブレの場合はシャッター速度を速く設定してください。	29ページ
	ファインダーの視度が合っていない。	視度調整を行ってください。	25ページ
ファインダー内の● が点滅する。	撮影する距離が近すぎたり、オートフォーカスの苦手な物などのためピント合わせができない。	フォーカスロックを使うか、マット部分でのピント合わせをご利用ください。	33、38ページ
表示パネルのE が点滅する。	フィルムが正しく入っていません。	もう一度フィルムを正しく入れ直してください。	18ページ
	フィルムバックとカメラの接触不良の可能性があります。	フィルムバックの着脱を何度かしてみてください。	17ページ
表示パネルの0 が点滅する。	多重露出にセットされている状態でフィルムを入れようとしています。	多重露出を解除し、シャッターボタンを押し直してください。	20、45ページ
表示パネルのErr が点灯する。	カメラの異常の可能性があります。	一旦電池を抜き、再度入れなおしてください。 Err 表示が消えた後、お客様窓口にご相談ください。	11、裏表紙

静電気などの影響により、希にカメラが正しい作動をしなくなることがあります。このような場合には、一旦電池を入れ直してみてください。また、ミラーが上がったままになった場合には、電池を入れ直してから電源をON にし、シャッターボタンを半押しにすると、ミラーが下がります。これらを行ないカメラが正常に作動すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

主な仕様

型式	TTL AE・AF6×4.5cm判一眼レフカメラ
画面サイズ	56×41.5mm
使用フィルム	120ロールフィルム（15枚撮り）、220ロールフィルム（32枚撮り）、ISO6～6400、120・220はそれぞれ専用フィルムバック使用、途中交換不可
露出モード	プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出、マニュアル露出、バルブ
シャッター	電子制御式布幕縦走りフォーカルプレーンシャッター、 オートシャッター＝1/1000秒～30秒［無段階］、 マニュアルシャッター＝1/1000秒～6秒、バルブ、電源OFFでシャッターロック
レンズマウント	ペンタックス645AFマウント［AFカプラー、レンズ情報接点付］
使用レンズ	645Aマウント、645AFマウントレンズ
オートフォーカス機構	TTL位相差検出式3点測距（SAFOX IV）、オートフォーカス作動輝度範囲－1Ev～18Ev［ISO100］、スポットAF可能、フォーカスロック可能、AFモード＝S（シングル）・C（コンティニアス）［動体予測可］、合焦時電子音（解除可）
ファインダー	ケプラーテレスコープ式ファインダー、交換式ナチュラルブライトマットフォーカシングスクリーン、視野率　縦92％横93％、倍率0.76倍［75mm・∞］、視度＝－3.5～＋1m^{-1}［毎メートル］、3点AFフレーム、スポットAFフレーム、スポット範囲円
ファインダー内表示	フォーカス表示［FI＝フォーカスインジケーション］ 合焦マーク＝点灯　合焦不能マーク＝点滅、シャッター速度表示、絞り表示、 ＝ストロボ情報、バーグラフ＝露出補正値、オートブラケット表示、マニュアル露出時のオーバー・アンダー表示、 ＝露出補正、 ＝AEロック
LCDパネル表示	＝撮影データ写し込み可、 ＝電池消耗、フィルム感度、ISO、フィルム枚数
セルフタイマー	電子制御式、シャッターボタンで始動、作動時間12秒

ミラー	クイックリターンミラー、オートフォーカス用第2ミラー付、ミラーアップ可能
フィルム入れ	120・220フィルムバックはスタートマークによるセミオートローディング
巻き上げ	内蔵モーターによる自動巻き上げ（シャッターボタンによる作動）、1コマ撮影・連続撮影［約2コマ／秒］、途中巻き取り可能
露出計・測光範囲	TTL開放デュアル6分割測光、測光範囲75mmF2.8 ISO100 EV2～21、中央重点・スポット測光可能
露出補正	±3 1/3EV［1/3EVステップで設定可能］
多重露出	多重露出レバーによるセット
AEロック	ボタン式（タイマー式）シャッターボタン半押しで継続
オートブラケッティング	±1/3、±2/3、±1または±1/2、±1、±3/2を選択可
シンクロ	ホットシュー［X接点専用ストロボ接点付き］専用ストロボ連動　同調スピード1/60秒、ISO連動範囲＝25～800
撮影データの写し込み	フィルムの画面外に撮影時自動写し込み（解除可） 項目＝ボディ識別記号、撮影本数、撮影コマNo.、露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、オートブラケット、測光モード、AEロック、ストロボ同調、レンズ焦点距離、フォーカスモード、AFモード、AFエリア、AF測距点、設定ISO感度
電源	単3形電池6本使用（単3形リチウム電池・単3形アルカリ電池）、リモートバッテリーパック645による遠隔操作可能。
電池消耗警告	バッテリーマーク🔋点灯［点滅でシャッターロック、ファインダー内表示は消灯］
大きさ・質量［重さ］	150mm［幅］×111mm［高］×117mm［厚］　1280g ［大きさ、質量はフィルムバック付、レンズ・電池はなし］
付属品	ボディーマウントキャップ645、ボディー後キャップ645、ワンタッチレリーズソケットキャップ、カメラストラップG、大型アイカップ、ホットシューカバー FK

さくいん

記号・英数字

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か最寄りの当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤の入った場所での保管等）や手入れの不備（泥・砂・ホコリ・水かぶり・ショック等）による故障。
   - 保証書の添付のない場合。
   - 販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以後の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後10年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外旅行をされる場合国際保証書をお持ちください。国際保証書は、当社サービス窓口でお持ちの保証書と交換に発行しております。［保証期間中のみ有効］
7. 保証内容に関して、くわしくは保証書をご覧ください。

ペンタックスファンクションの設定表示一覧

ペンタックスファンクションの設定を行う際の、表示パネルの表示一覧です。切り取ってご利用ください。
各設定のうち、①は初期設定を表しています。

[F0] ボディ識別記号の設定

①写し込みなし

②ボディ識別記号：A

③ボディ識別記号：B

④ボディ識別記号：C

⑤ボディ識別記号：D

⑥ボディ識別記号：E

⑦ボディ識別記号：F

⑧ボディ識別記号：G

[F1] シャッター速度のステップ設定

①1/2EVステップ

②1EVステップ

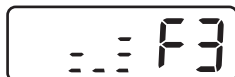
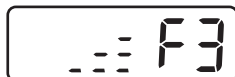
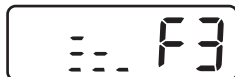
[F2] 測光タイマーの時間設定

①10秒

②20秒

③30秒

[F3] オートブラケット撮影の順序設定

①適正⇒アンダー⇒オーバー

②アンダー⇒適正⇒オーバー

③オーバー⇒適正⇒アンダー

[F4] セルフタイマーの作動時間設定

①12秒後

②2秒後

[F5] 露出補正のステップ設定

①1/3EVステップ

②1/2EVステップ

[F6] プログラムシフトの設定

①無効

PoFF F6

②有効

[F7] フィルムカウンターの設定

①加算表示

②減算表示

[F8] 撮影本数とフィルムカウンターのファインダー内表示設定

①表示させない

②表示させる

[F9] 撮影可能枚数の設定

①15枚・32枚撮り

120フィルムバック装着時

220フィルムバック装着時

32 F9

②16枚・33枚撮り

120フィルムバック装着時

220フィルムバック装着時

ペンタックスピックアップリペアサービス

全国（離島など、一部の地域を除く）どこからでも電話一本でペンタックス指定の宅配業者がお客様ご指定の日時・場所に梱包資材を持って不具合品を引き取りにお伺いし、専門修理スタッフが修理を行なって、お客様ご指定の場所に完成品をお届けするサービスです。

電話受付

TEL　0120-97-0405 （フリーダイヤル）
（受付時間 ：平日 8：00～21：00　土・日・祝日・年末年始 9：00～18：00）

（宅配便・郵便修理受付・修理に関するお問い合わせ）

ペンタックス イメージング・システム事業部　東京サービスセンター　03-3975-4341（代）
〒175-0082　東京都板橋区高島平6-6-2　ペンタックス流通センター内
営業時間：9：00～17：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス イメージング・システム事業部　大阪サービスセンター　06-6271-7996（代）
〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間：9：00～17：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス　　　**http://www.pentax.jp/**

[弊社製品に関するお問い合わせ]
お客様相談センター　　　**ナビダイヤル　0570-001313**
（市内通話料でご利用いただけます。）

携帯電話、PHS および IP 電話の方は、下記の電話番号をご利用ください。
☎03-3960 -3200（代）
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9
営業時間　9：00 ～18：00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

[ショールーム・写真展・修理受付]
ペンタックスフォーラム　　　**☎03-3348-2941（代）**

〒163-0690 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービルMB（中地下1階）
営業時間　10：30～18：30
休業日　毎週火曜日、年末年始およびビル点検日

ＨＯＹＡ株式会社
ペンタックス イメージング・システム事業部
〒174-8639 東京都板橋区前野町2-36-9

☆この説明書は再生紙を使用しています。
☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
56756

H10-200804
Printed in Japan